官報 號外 明治三十年三月二十日 土曜日 内閣官報局

○第十回帝國議會 貴族院議事速記錄第二十三號

明治三十年三月十九日(金曜日)午前十時十九分開議

議事日程 第二十三號 明治三十年三月十九日

午前十時開議

第一 明治三十年度歲入歲出總豫算追加案(總追第一號)(政府提出衆議院送付) 會議(豫算委員長報告)

第二 明治三十年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特追第一號)(政府提出衆議院送付) 會議(豫算委員長報告)

第三 森林法案(政府提出衆議院送付) 第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧

第五 國有土地森林原野下戻法案(政府提出衆議院送付) 第一讀會

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧

第七 國稅徵收法案(政府提出衆議院送付) 第一讀會

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧

第九 國費ヲ以テ教科用圖書ヲ編纂スルノ建議(小暮英三郎君發議) 會議

第十 特別市制撤去ノ請願 會議

第十一 復祿及復族祿ノ請願 會議

第十二 特別輸出入港開設ノ請願 會議

第十三 下ノ關門司兩港ヲ開港外輸出入港ト爲スノ請願 會議

第十四 登錄稅法自家用酒稅法葉煙草專賣法改正及廢止ノ請願 會議

第十五 清國償金ノ一部ヲ普通教育基本金ニ充ルノ請願 會議

第十六 營業稅法改正ノ請願 會議

第十七 社寺上地山林引戻ノ請願 會議

第十八 地租免除ノ請願 會議

第十九 日本銀行條例中改正ノ請願 會議

第二十 特別免租ノ請願 會議

第二十一 地租延納ノ請願 會議

第二十二 不正肥料販賣取締規則發布ノ請願 會議

○議長(公爵近衞篤麿君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

(有賀書記官朗讀)

昨十八日本院ニ於テ可決シタル政府提出株式會社十五銀行株式華族世襲財產ト爲スノ件法律案ハ即日衆議院ニ送付シタリ

同日本院ニ於テ可決シタル復祿及復族祿外六件ノ請願ハ意見書ヲ付シテ即日政府ニ送付シタリ

同日村田保君ヨリ三十名ノ贊成ヲ以テ製鹽調査所設置ニ關スル建議案ヲ發議セラレタリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領シタリ

明治三十年度歲入歲出總豫算追加案(總追第三號)

明治三十年度特別會計歲入歲出豫算追加案(特追第三號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件(大藏省拓殖務省文部省所管)(內務省所管)

同

明治二十九年度海軍省所管歲出臨時部臨時軍事費中支出未濟豫算額ノ繰越使用ニ關スル法律案

土地區劃改良ニ係ル法律案

本院ヨリ回付シタル政府提出明治三十年度歲入歲出總豫算案ニ關シ昨十八日衆議院ヨリ左ノ通牒ヲ受領シタリ

右案ニ付本院ハ貴院ノ修正ニ同意セサルコトニ決議セリ因テ議院法第五十五條ニ依リ兩院協議會ヲ開クコトヲ請求候也

明治三十年三月十八日

貴族院議長公爵近衞篤麿殿

衆議院議長鳩山和夫

本院ハ明治三十年度歲入歲出總豫算案協議委員ノ數ヲ拾名ト爲スニ決セリ此段通知候也

明治三十年三月十八日

貴族院議長公爵近衞篤麿殿

衆議院議長鳩山和夫

本院ヨリ送付シタル政府提出種牡馬檢査法案ヲ可決奏上シタル旨同日衆議院ヨリ通牒ヲ受領シタリ

委員長副委員長左ノ通當選セラレタリ

保稅倉庫法案特別委員會

委員長 子爵鍋島直彬君 副委員長 子爵稻垣太祥君

海上衝突豫防法中改正法律案特別委員會

委員長 箕作麟祥君 副委員長 子爵內藤政共君

屯田兵土地給與規則中改正法律案外一件特別委員會

委員長 子爵曾我祐準君 副委員長 男爵本田親雄君

明治二十八年豫備金支出ノ件外三件特別委員會

委員長 公爵德川家達君 副委員長 子爵本莊壽亘君

唯今報告ヲ致シマシタル通總豫算ニ附キマシテ衆議院ヨリ不同意ノ通牒ガアリマシテ協議會ヲ開クト云フコトニナリマシタ、其協議會ノ委員ノ數ヲ十名トスルト云フコトニ通知ガアリマシタニ付キマシテハ直ニ協議會ノ委員ヲ茲デ選擧シテハ如何ト思ヒマス、御異議ガナクバ其手續ニ致シタウゴザイマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

然ラバ其選擧ヲ致シマス

○子爵曾我祐準君　右委員ハ議長ノ指名ニナランコトヲ希望致シマス
○侯爵醍醐忠順君　贊成
○三浦安君　贊成
○子爵小笠原壽長君　贊成
○瀧口吉良君　贊成
（其他「贊成」ト呼フ者アリ）
○議長（公爵近衛篤麿君）　曾我子爵ノ動議ニ御異議ガナクバ其通ニ致シマス、直ニ指名致シマス
兩院協議委員
伯爵正親町實正君　伯爵清棲家敎君
子爵谷干城君　子爵堀田正養君
子爵松平乘承君　男爵安場保和君
箕作麟祥君　兒島惟謙君
前田正名君　南鄕茂光君
此諸君ヲ煩シマス、又唯今報告致シマシタル通更ニ豫算案ヲ受領致シマシタ、明治三十年度歳入歳出總豫算追加總追第三號、明治三十年度特別會計歳入歳出豫算追加特追第三號、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ガ二件、此審査期限ヲ定ムルコトヲ會期モ切迫シテ居リマスルカラ直グニヤリタイト思ヒマスガ御異議ガナクバ……
（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
然ラバ其通ニ致シマス

○子爵谷干城君　今述ベラレマシタ二箇條ノ追加豫算デゴザイマスルガ是ハ御宣告モゴザイマスル通リ日モ切迫シテ居リマスルニ依ッテ二十三日中ニ報告ヲ致スヤウニ致シテハ如何デアラウト思ヒマス
○子爵曾我祐準君　贊成
○議長（公爵近衛篤麿君）　谷子爵ノ動議ニ御異議ガナクバ其通ニ……
（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
然ラバサウ云フコトニ決シマス、是ヨリ會議ヲ開キマス、第一、明治三十年度歳入歳出總豫算追加總追第一號政府提出、衆議院送付會議、豫算委員長報告

○子爵谷干城君　是ハ誠ニ簡單デスカラ是カラ報告致シタイト思ヒマス、此總追第一號ハ御承知ノ通先達テ可決ニナリマシタ法律ノ結果デ、卽チ陸軍省ノ此東京大阪ノ砲兵工廠及千住ノ製絨所等ノ作業費デゴザイマス、是ハモウ何モ論ズベキ事柄ハ一ツモゴザイマセヌ、昨日暫時ノ間ニ決定致シマシタカラ諸君モドウゾ其御積デ御贊成アランコトヲ希望致シマス
○議長（公爵近衛篤麿君）　本案全部ヲ問題ニ供シマス、款項ヲ速ネテ全部ヲ朗讀致サセマス
（阪本書記官朗讀）
第九款　歳入臨時部
償金繰入　金百參拾參萬九千八百九拾五圓拾錢四厘
第一項　償金繰入　金百參拾參萬九千八百九拾五圓拾錢四厘
歳出臨時部
陸軍省所管
第十一款　作業場據置運轉資本補足費　金百參拾參萬九千八百九拾五圓拾錢四厘
第一項　東京砲兵工廠作業運轉資本補足　金六拾五萬五百貳拾八圓六拾六錢四厘
第二項　大阪砲兵工廠作業運轉資本補足　金五拾八萬貳千六百拾四圓八拾參錢六厘
第三項　千住製絨所作業運轉資本補足　金拾萬六千七百五拾壹圓六拾錢四厘
○議長（公爵近衛篤麿君）　御異議ガナクバ原案可決ト認メテ宜シウゴザイマスカ
（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
然ラバ本案ハ可決ニナリマシタ、其前ノ豫算ト云フ所ヲ落シマシテゴザイマス
（阪本書記官朗讀）
豫算
明治三十年度歳入歳出追加額ヲ各百參拾參萬九千八百九拾五圓拾錢四厘ト定ム其款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ
○議長（公爵近衛篤麿君）　是モ御異議ガナクバ原案ニ決シマス
（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
次ハ明治三十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、特追第一號、政府提出、衆議院送付、會議、特別委員長報告

○子爵谷干城君　是モ同樣法律ノ結果唯今可決ニナリマシタノト牽聯シテ居ル案デゴザイマシテ別ニムヅカシイコトモゴザイマセヌドウゾ速ニ御協贊アラムコトヲ希望致シマス
○議長（公爵近衛篤麿君）　是又全部ヲ問題ニ供シマス全部ヲ朗讀致サセマス
（阪本書記官朗讀）
各特別會計豫算
明治三十年度大藏省所管特別資金陸軍省所管東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠、千住製絨所各歳入歳出豫算追加額及其款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ
大藏省所管
特別資金
歳出
第一款　特別資金支出　金百參拾參萬九千八百九拾五圓拾錢四厘
第一項　歳入臨時部繰入　金百參拾參萬九千八百九拾五圓拾錢四厘
陸軍省所管
東京砲兵工廠
歳出
第一款　東京砲兵工廠作業費　金六拾五萬五百貳拾八圓六拾六錢四厘
第五項　材料素品購買費　金六拾五萬五百貳拾八圓六拾六錢四厘
大阪砲兵工廠
歳出
第一款　大阪砲兵工廠作業費　金五拾八萬貳千六百拾四圓八拾參錢六厘
第五項　材料素品購買費　金五拾八萬貳千六百拾四圓八拾參錢六厘
千住製絨所
歳入
第一款　千住製絨所作業收入　金貳拾八萬五千百四圓貳拾四錢
第一項　作業收入　金貳拾八萬五千百四圓貳拾四錢

第一款　千歳出
第四項　千住製絨所作業費　金貳拾八萬五千百四圓貳拾四錢
第七項　死傷手當　金六拾圓
第八項　旅費　金貳拾參圓四拾九錢
第九項　雜給及雜費　金壹萬七千拾六圓五拾五錢
第十項　作場費　金四萬貳千貳百四拾圓五拾六錢七厘
材料素品購買費　金貳拾貳萬五千七百六拾參圓六拾參錢參厘

○議長（公爵近衛篤麿君）別段御異議ガナクバ原案可決ト認メマス
（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
然ラバ確定致シマス

○子爵曾我祐準君　此際議事日程ヲ變更サレマシテ重要輸出品同業組合法案ノ議事ヲ開カレンコトヲ請求致シマス
○子爵小笠原壽長君　贊成
○村田保君　贊成
○子爵山口弘達君　贊成
○前田正名君　贊成
○議長（公爵近衛篤麿君）曾我子爵ノ議事日程變更ノ動議ニ御異議ガナクバ左樣致シマス
（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
然ラバ議事日程變更ニナリマス、重要輸出品同業組合法案第一讀會ノ續特別委員長報告

（子爵曾我祐準君演壇ニ登ル）

○子爵曾我祐準君　此委員報告案ニハ大變ナ誤ガアリマス、急ギマシタ譯デアッタカ印刷ニ大イナル誤リガアリマス、今朝諸君ノ函ニ入ッテ居リマス所ノ修正案ニ大イナル誤ガアリマス、其修正案ノ方ヲ諸君御覽下サイマシ、修正案ノ第一頁ノ中程ニ一組長一名、一副組長一名ト書イテアリマセウ其次ニ一、評議員若干トアリマスガ其下ニ「名」ノ字ガ拔ケテ居ル「若干名」トスルノデアリマスソレカラ同シ紙ノ第十七條ノ所ニ「第四條第十三條ノ規程ニ違背シタル者」マデハ宜シイ其下「若クハ」以下ノ十七字ヲ御削リ下サイマシ、讀ミマスレバ「若クハ同業組合ノ經費ヲ納付セサル者」ソレダケノ十七字ヲ削ルト云フノデアリマス、ソレカラ開ケマシタ所ノ卽チ第二葉「過料ハ同業組合」ト云フマデハ宜シイノデス其下ニ「及同業組合聯合會」ト云フ八字ヲ加ヘルノデアリマス、是ハ加ヘルバカリデアリマス、ソレカラ其ツイ下ニ「區裁判所」トアリマセウ此「區」ノ字ヲ削ッテ「地方裁判所」トスルノデアリマス、ソレダケガ正誤デアリマス

（子爵小笠原壽長君「過料ノ所ヲモウ一遍」ト呼フ）

過料ハ同業組合「及同業組合聯合會」是ダケヲ加ヘルノデアリマス正誤ハソレデ御分リマシタデアリマセウ、本案ハ昨日朝ヨリ夕方ニ至ルマデ審査ヲ致シマシタ隨分綿密ニ審査ヲシタ積デアリマス、此表題卽チ重要輸出品ト云フモノハ如何ナルモノカト云フト字ノ如ク重要ナル所ノモノニシテ且外國ニ出ル品ナンデアリマスガ其ドレ位以上ヲ重要ト見テ居ルカト云フト此原案卽チ政府案ノ認メテ居ル所ハ凡ソ一箇年ニ十万圓以上ノ價アルモノガソレガ重要ト認メテ居ルサウデアリマス、而シテ其重要ノ品數ハ卽チ重要ト認メル所ノ品數ハ幾ラバカリアルカト云フト唯今ノ所デハ五十五六品アルサウデアリマス、此法案ノ趣意ハ理由書ニモ書イテアル通近來段々此粗製濫造ト云フヤウナ譯ニナッテ折角ノ日本ノ產物モ初ハ宜シイガ段々粗末ニナッテ大イニ聲價ヲ失フ、今日此國產ヲ殖スト云フコトハ非常ニ必要ナ問題デアルガ然ルニ片ッ端カラ粗製濫造シテ日本ノ物品ノ品位ヲ落シ、價ヲ落スト云フヤウナノハ甚ダ慨ハシイコトデアルニ依ッテソレヲ救フト云フノガ此法律ノ全クノ精神デアリマス、デ委員等ガ修正シマシタ所ニ附イテ申上マスト諸君ノ御手ニアル所ノ修正案第八條「左ノ役員ヲ置クヘシ」ト云フコトニ改メマシテサウシテ役員ヲ列記シテアリマス、之ヲ致シマシタ譯ハ大シタ理由ハアリマセヌ、併シ斯ノ如キ法律ニハ大概斯ウ云フ風ニ役員ハドウ云フモノヲ置クト云フコトヲ列記スルノガ先ヅ當リ前ノコトニナッテ居ル、ソレ故ニ茲ニモ列記シタガ宜カラウ、且ツ列記シナケレバ或ハ組長トカ或ハ組頭トカ種々幹事トカ云フヤウナ名ヲ附ルカモ知レナイ、サウスレバ全國ヲ通ジテ一定シナイト云フ嫌ガアル、ソレハ條例ナリ何ナリデ極メレバ事ガ足リルヤウデアルガ法律デハ普通斯ウ云フヤウナ所ハ役員ノ名稱ヲ掲ゲテアル、ソレ故ニ此案ニモ掲ゲタイト云フノデアリマシテ別ニ大シタ理由ハナイノデアリマス、ソレカラ「役員ハ名譽役トス」ト原案ニアルノヲ棒ヲ引イテ削ッテシマッタ、是ハ實際名譽役デハ迚モイケナイ所ガアル、或所ハ名譽役デモ宜シイガ同業組合ノ上ニ於テハ名譽役デハ勤手ガナイト云フヤウナ點ガアルカラ寧ロ削ッテ置ケバ名譽役ニシテモ宜ケレバ又有給役ニシテモ宜イ、ソレハ組合ハ申合セデ宜シイト云フ趣意ヲ以テ委員會デハ削リマシタ、第十七條ノ中ノ十七字ヲ削リマシタ、卽チ先刻正誤トシテ此席デ申上ゲマシタ所デ此譯ハ勿論此十七條トハ云フモノハ罰則ノ所デアリマスガ同業組合ヲ立テ、居ル以上ハ幾ラカノ費用ガ要ル、其費用ヲ同業組合ノ仲間ノ者ニ賦課シテ居ル、若モ其費用ヲ納メナカッタトキノ處分、是ハ別ニ茲ニ掲ゲヌデモ宜シイコンナ法律沙汰ニシテ茲ニ過料ナンドニセヌデモ宜シイ、ソレハナゼ宜シイカト云フト第十條ヲ御覽下サイ第十條ニ「同業組合又ハ同業組合聯合會ニ於テ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵スルノ必要アルトキハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ」トアリマスカラ是ハ過料ニ相違ナイ、是等ニ就イテノ過怠料ハ幾ラデモ極メラレルシ過怠料ハ過料トシテ徵收スルモ出來ルカラ過料トシテ別ニ徵收スルニ及ハナイ、其組合ノ入費ヲ納メナカッタ者ガアッタラバ組合ノ定款ニ於テ過怠料ヲ取ルコトニシテ置ケバ十分デアルト云フ趣意ヲ以テ此十七字ヲ削リマシタ、ソレカラ其次ノ修正、同條ノ「過料ハ同業者」ノ下ニ「及同業組合聯合會」ト云フ八字ヲ加ヘマシタノハ是ハ原案卽チ政府案ニハ卽チ忘レテ居ッタカ落チテ居ッタモノト考ヘマス、ソレヲ補ヒマシタノデゴザイマス、ソレカラ「區裁判所」ノ「區」ノ字ヲ除ケテ「地方裁判所」トシマシタノハ過日此議場デ可決シマシタ古社寺保存ノ所ニモ丁度地方裁判所トナッテ居リマス、是ハ地方裁判所トセヌト工合ガ惡イサウデアル、其工合ノ惡イト云フ理由ハ本員ハ說明ガ少シ出來マセヌ、能ク裁判法ヲ存ジマセヌカラ然シ最モ新シク規定セラレタ所ニモ地方裁判所ト爲ッテ居リマシテ地方裁判所ト爲ラヌト何カ惡イコトガアルサウデゴザイマスカラ地方裁判所ト改メマシタ、ソレカラ赤デ「ヲ爲ス」ト云フ二字ガ改マッテ居リマスガ是ハ「卽時抗告スル」ト云フヨリハ「卽時抗告ヲ爲ス」ト云フガ普通ノ法文ダサウデ、是ハ文章ダケノ話デアリマス、ソレカラ十八條、十八條ニ「二圓」ト云フ字ヲ削ッテ「十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓」ト斯ウ云フ字ガ加ッテ居リマスガ原案ハ僞造者若クハ摸造者卽チ檢査證ヲ營業品ニ僞リ附シタリ若クハ僞造シタリ若クハ

摸造シテ檢査證ヲ營業品ニ附ケタ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金、斯様ニナッテ居ルノデアリマス、委員ノ説デハ是ハ輕ル過ル、モウ少シ重クシナケレバナラヌト初ハ二百圓ニスルノ何ノト云フ議論モ出マシタガ詰リ委員一統一人殘ラズ之ヲ重クスルノ必要ガアルト認メ、何カ據所ガアッタラ宜カラウト云フ所カラ商標條例第二十三條ガ他ノ商標ヲ使用シタト云フヤウナ條デアッテ先ヅ之ニ一番似テ居ルノデアル、即チ此組合ノ檢査證ヲ僞造シタリ摸造シタリスルノニ能ク似寄ッテ居リマス、ソレ故ニ商標條例ノ第二十三條ノ罰ヲ此處ニ持ッテ來テ「十五日以上六月以下」ト云フ體刑ヲ加ヘタノデゴザイマス、併ナガラ「又ハ」ガ附イテ居リマスニ依ッテ體刑ヲ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ依ルカ又ハ十圓以上百圓ト云フ兩方使ヘルコトニシタ方ガ宜シイト云フ議論ガ委員デハ即チ此修正ノ如ク極メマシタ最モ大ナル修正トモ申スベキモノハ即チ附則第十九條デアリマス、是ハ直ニ此案ノ修正トハ少シ言兼ネマスケレドモガ第十九條ニ「輸出ニ屬セサル物品ト雖同業者ニ於テ必要ト認ムル時ハ仍本法ヲ準用スルコトヲ得」ト云フ一條ヲ加ヘマシタ、此趣意ト云フモノハ濫造粗製ノ弊ハ何ゾ獨リ輸出品ノミニ止ラヌ隨分輸出品デナイ品デモ濫造粗製ニ苦シム、サリナガラ此法案ハ名稱ガ重要輸出品ト爲ッテ居ル、輸出品ニアラザル品ト雖モ此組合ノ法ヲ用ヒルコトガ必要ト認メタトキハ此本法ヲ適用シテモ宜シイ、斯ウ云フコトニシテ置ケバ大イニ便利デモアリ是ハ政府モ大ニ贊成サレマシタ、何トナレバ今日マデハ輸出品デナクテモ何ゾ計ラヌ明日ハソレガ輸出品ニナル物モアル、サウスレバ直グ輸出品ニナッタ時或ハナラントスル時分ニ其濫造粗製ヲ禁ズルコトモ出來ル、又ドウシテモ此輸出品ト言ヘヌヤウナ物デ謂ハヾ友仙ノ襟トカ何トカ云フモノデモ是ガ必要ト認ムルトキハ此法ヲ用ヒルコトガ出來ルト云フヤウナ論デ即チ此第十九條ト云フモノヲ置イテ輸出品ニアラザルモノニモ之ヲ適用シ得ルト云フコトニ委員會デ極メマシタノデアリマス、而シテ此修正ハ政府委員ハ始ヨリ終リマデ總テ修正ニハ不同意デハアリマセヌ、皆同意ヲ表サレマシタ、尙ホ本條ニ就テ御質問ガアルナラバ政府委員ノ方ニ御尋ネ下スッタラバ私ノ申スヨリモ尙ホ精シカラウト思ヒマス、修正ノコトハ委員デシマシタニ依ッテ私ガ報告シマシタ、大略今デハ盡キタリト考ヘマスカラソレダケヲ報告シマス

○小幡篤次郎君　一言特別委員長ニ御尋致シマスガ此コトハ農商工高等會議ニ御諮問ニナリマシタノデゴザイマスカ如何デゴザリマスカ是等ハ御尋ニナリマシタノデゴザリマスカ

○子爵曾我祐準君　ソレハ尋ネマセヌ、サウ云フ論ハ一ツモ出マセヌデシタ

○小幡篤次郎君　ソレナラバ政府委員ニ質問致シマスガ是ハ御相談ニナリマシタカ如何デゴザイマスカ

（政府委員安藤太郎君演壇ニ登ル）

○政府委員（安藤太郎君）　小幡君ニ御答致シマス、ソレハ高等會議ニハ諮問ニナリマセヌノデゴザイマス、併シ此問題ハ餘程古クカラ商業會議所若クハ各地實業團體ニ屬ス諮問モシ又討議ヲ盡シタノデアリマスカラ別ニ改テ之ヲ諮問ニ掛ケル必要ハナイト認メテ諮問ニ掛ケマセヌノデゴザリマシタ

○小幡篤次郎君　モウ一ツ御尋致シマス、成ル程各地方ノ何カラ申出モゴザリマセウシ御諮問ニナリマシタラウガ此重要輸出品組合ヲ拵ヘマシテハ幾ラカノ檢束ヲ加ヘマスト云フコトハ工業者商業者ニ關係シマシテ重大ノコトヽ考ヘマスガソレハ折角高等會議モゴザリマスノニ如何ナル理由デ御掛ケニナリマセヌノデゴザリマスカ

○政府委員（安藤太郎君）　理由ト申スノハ今申上ゲマシタ通是マデ十分ニ可否ノ論モ盡シテアリマスノデアリマス、同時ニ此問題ハ殆ド今日ハ理窟ヨリハ寧ロ事實問題デ必要ナルコトハ明々白々デゴザリマス、隨分之ニ對シテ驗撃ヲ試ラレルモノモ澤山アリ又一方ニ取ッテハ明ニ是ハ必要ノコトハ分ッテ居リマスカラ別ニ問題トシテ諮問ニ掛ケル必要ハナイト政府ハ認メマシテ掛ケマセヌデゴザイマシタ

○久保田讓君　チョット今小幡君ノ御質問モゴザイマシタガ斯ウ云フ重要ノコトヲ農工商高等會議ニ諮問セズニ御ヤリニナッタト云フノデゴザリマスガ全體本員ハ疑ヲ生ジマスノハ先キ達ッテノ豫算委員會ノ時農商務省ノ高等會議ハ私ハ絶對的不用ノモノデアルト云フコトヲ申シタトキ政府委員ノ金子君ハ縷々其必要ヲ述ベラレマシテ是ニ依ッテ農商務大臣ハ海外貿易ノ擴張ヲ計ル上ニ非常ニ必要デアルト云フコトノ御議論ガゴザイマシタ、私ハ其御議論ハ御尤デアルガ實際ハ甚ダ感服シナイト云フコトヲ申述ベマシタ、即チ今日御答辯ニヨリ彼ノ會議ハ少シモ用ハナイト云フコトヲ農商務省自身ニ御信ジニナッテ居ルヤウニ思ハレマスガ如何デゴザイマスカ

○政府委員（安藤太郎君）　ソレハ私ノ申シ方ガ悪カッタカ、アナタノ御聽方ガ悪カッタカ、失禮ナガラ、私ハ此問題ハ高等會議ニ掛ル程ノ必要ヲ見マセヌデスカラ掛ケマセヌデアッタト申シマシタノデ彼ノ高等會議ガ不必要ノモノデアルトハ申シマセヌ、ソレハ私ノ申シヤウガ悪カッタカ知レマセヌガサウ御聽取リヲ願ヒマス

○久保田讓君　斯ノ如キコトヲ御諮ニナラナケレバ必要ハナイト思フ

○政府委員（安藤太郎君）　ケレドモ政府ハ從來幾度ビトナク質問或ハ諮問ニ掛ケマシタモノデ其要領ヲ盡シ切ッテ居リマスカラ掛ケマセヌノデ他ニ幾ラモ必要ノモノガゴザイマスカラソレハ御承知ノ通掛ケテ置キマシタ

○久保田讓君　ドウモソレデハ何モナラヌ

○小幡篤次郎君　大體ニ附キマシテ意見ヲ述ベマシテ宜シウゴザイマスカ

○議長（公爵近衞篤麿君）　宜シウゴザイマス

（小幡篤次郎君演壇ニ登ル）

○小幡篤次郎君　此重要輸出品同業組合法案ト申シマスルモノハ私ハ絶對的ニ反對ヲ表シマスモノデゴザイマス、斯ルドウモ輸出品同業組合ニ檢束ヲ加ヘマシテ其物品ノ檢査ヲ致シマスト云フヤウナコトハ是ハ大變ニ商業社會工業社會ノモノヽ權利ノ上ニ關係致シマス、働ノ上ニ關係致シマス、如何ニモ重大ノ問題デゴザリマスガ此重大ナル問題ヲ折角ゴザリマス高等會議ニ諮問セナイト云フコトハ甚ダ農商務省ハ相濟マナイコトヽ考ヘマス、斯ルコトヲ相談致シマスメニアル諮問ノ府デアルノニソレヲ差措キマシテ徒ニ唯極ク細カナル濫造ナドノ弊害ノ先ヲ見マシテ其本ニ斯ルドウモ檢束ヲ加ヘマスレバ如何ナル弊害ヲ生ジテ來ルト云フコトノ大ナル本ニ少シモ考ヘ及ンデ居ナイ、唯末ダケヲ矯メルコトニ考ヲ付ケラレタコトヽ思ヒマス、此商工業ノ發達ト申シマスルモノハ銘々ノドウモ智力ト金力ニ依リマスモノデ決シテ斯ル法制ヲ以テ矯正ノ出來マスモノデハゴザイマスマイト思ヒマス、是ハドウモ如何ニモ人ノ智惠モ金モ一ツニシテシマフト云フヤウナ如何ニモ今日折角人智ノ發達仕掛ケテ銘々工風ヲ凝シ銘々其金力ニ從ヒマシテ自分ノ特有ノ物ヲ拵ヘテ行クト云フコトハソレハ產業ノ上ニ大變大切ナコトデゴザイマス、ソレデ今承リマスヤウニ濫造ナドノ弊害ハナイデハアリマセヌ、濫造ノ弊害モ十分ゴザイマスガ是ハ商賣ノ上デ自分ガ其拵ヘマシタ者ガ斯ル粗末ノ物ヲ拵

ヘタ濫造シタト云フコトノ責ハ自分デ被ルヨリ外ニ矯正ノ途ハ殆ドナイノデゴザイマシテ斯ル法律ヲ設ケマシテ人ノ智愚ヲ一體平等ノモノニシヤウト申シマスルト卽チ其平均ハ中人以下ノ低イ所ノモノニスルコトニナリマスノデ産業發達ノ上ニ大ナル妨害ヲ加ヘルモノト私ハ考ヘマス、若シ有名ナル輸出ヲ致シマスモノナドハ色々自分ガ工風ヲ致シマシテ新發明ノモノナドヲ製作シテ出シマスノデゴザイマセウ、斯ルモノヲ一ツノ同業ト云フモノニナリマシテ其組合ノモノ、檢査ヲ受ケ調ヲ受ルコトニナリマシタナラバ惡イ方ノ矯正ハ出來マスガ良イ物ノ上ニハ大變迷惑ヲ被ラセルコトニナリマシテ其發達ヲ妨害致シマシテ遂ニハ折角智惠アリ金アルモノ、仕事ノ上ニ大ナル妨ヲ加ヘマシテ重要輸出物ガゴザイマシテモ必ズ萎靡衰頽ヲ來タス法律デゴザイマスカラ私ハ絕對的ニ反對ヲ致シマス

（前田正名君演壇ニ登ル）

○前田正名君　同業組合法案ニ就イテ反對者ノ意見ヲ聽クコト出來マセナカッタガ、反對者ノ意見ハ御自身ノ御意見デアラウト思ヒマス、又ハ格別此法案ニ就テ關係ノナイ方ミノ說ヲ信用シテ居ラレルコト、思ヒマス、本員ハ決シテ一己ノ意見ヲ申スノデハゴザイマセヌ、全國同業者ノ此實業家ガ多年希望シテ居ルノデゴザイマス、既ニ昨年ハ衆議院ヲ通過シマシテ本院ニ於テハ議事日程ニマデモ上リマシタケレドモ其時ガナクテ議決スルコトガ出來ナカッタ、私ノ意見ヲ申スノデハナイト申シ上ゲマスルノハ他デゴザイマセヌガ、日本今日ノ輸出スル品ヲ製造シテ居ル人達ノ到ル所此法律ヲ好ムノデゴザイマス、ソレハ手近イ話ヲ申上ゲマスルト、卽チ此處ニ敷イテアル段通ノ如キデゴザイマス堺市ニ於キマシテ非常ナ輸出ヲ爲シタモノデゴザイマスルガ、粗製濫造ノタメニ信用地ニ落チテ今日ハ誠ニ不景氣ヲ來シテ居ル、其粗製濫造スル人達ガ此法案ヲ好ム所デゴザイマス、何故ナレバ甲ノ製造家ガ例ヘバ十圓デ賣ル、乙ノ製造家ガ九圓ト爲ス又八圓ト爲ス七圓ト爲ス、已ムヲ得ズ人ガ粗製ヲスル、粗製ヲシテ金ヲ儲ケナケレバ仕方ナク已ムヲ得ズスルノデゴザイマス、故ニ其粗製濫造ヲスル者ガ此法律ヲ頻ニ希望シテ居ルノデゴザイマス、丁度一ツ獲物ガアッテ、良イ獲物ガアッテ之ヲ十アルモノヲ爭ハズシテモ十人デアレバ一ツ宛得ルノヲ之ヲ爭ハナケレバ取ラレヌタメニ大變競爭シテ取ルト云フヤウナモノデ粗製濫造ヲシナケレバ、到底御附合ヲシナケレバ金儲ケ出來ナイ、ト云フ有樣ニナッテ居ッテ其粗製濫造ヲスル人達ガ此法律ヲ好ムノデゴザイマス、其例ヲ擧ゲマスルト數百ゴザリマス、例ヘバ燒物ノ如キ一番日本全國ニ燒物ヲ製造スル所ハ岐阜縣ノ土岐郡デゴザイマス、明治二十四五年マデハ三千万箇、三千万數造ッタノデゴザイマス、其時アタリハ百二十圓餘ト云フモノデゴザイマス、僅カ五年ヲ經マシテ四倍ノ增額ヲ爲シタノデゴザイマス、四倍ニナリマシタ以上ハ同ジク直段モ四倍ノ高ニ上ル時ニハ丁度四百八十万圓許ノ產價額ニ上ラナケレバナラヌノニ品物數ハ四倍殖エテモ價ハ矢張依然トシテ百二十万圓デゴザイマス、其失フ所ト云フモノハ實ニ夥シイモノデゴザイマス、紙ニセヨ、花莚ニセヨ、漆器ニセヨ、陶器ニセヨ、織物ニセヨ、產額ハ殖エテ居リマスケレドモ粗製ノタメニ其得ル所ノ利益ニ至ッテハ何ボ品ハ殖エテモ價ハ寧ロ殖エナイ方ガ利益ト云フヤウナ有樣ニナッテ居リマス、何故ニ此同業組合法案ト云フモノヲ反對者ハ拒マレルカト云フト大家ニ於キマシテハ、非常ニ大家ニ於キマシテハ此組合ヲ餘リ必要トセズニ唯小サナ者ト共ニ謀ルト云フコトヲ御嫌ヒ位ナモノデアル、併シ今日此日本製造所ノコトヲ親シク書物ノ上デ見マシテ一己ノ意見ニ依ラズ物其物ニ問フテ御覽ニナッタナラバ決シテ之ニ反對ヲ試ミラルヽ理由ハナイノデゴザイマス、我々ハ一己ノ意見ヲ申スノデナク、物其物ノ意見ヲ問フテ此法律ノ必要ヲ認メマスモノデゴザイマス、又二三年來實業ノ發達、實業ノ發達朝野トモ囂々仰ッシヤイマスルガ、其實業ノ發達スルノ順序方法ニ至ッテハ何ノ定見アッテ云フカ、唯實業發達實業發達ト朝野トモ口癖ニ言ッテ居リマスガ、ドウ云フ方法ヲ以テドウ云フ著手シテ其順序ヲ定メルカト云フ點ニ至ッテハ實ニサッパリ其方針ハナイト云フコトヲ憚ラナイノデゴザイマス、他ノ事ニハ百歩モ讓リマスケレドモ此同業組合法ニ於キマシテハ決シテ人ノ意見ニ讓ルコト出來ナイノデゴザイマス、又此同業組合法案ガ誠ニ新シイヤウナモノニ反對者ハ見ルカモ知レマセヌケレドモ德川氏ノ時代ニハ斯ウ云フ法律ガナクテモ、此目的ヲ實行シテ居ルノデゴザイマス、斯ウ云フ憲法上ノ法律ハゴザイマセヌケレドモ德川氏諸藩皆舊藩主ノ方ニモゴザイマスルガ、其藩主ノ時分ハ此法律ヨリモ誠ニ立派ナ法ガアッテ肥後ノ米、土佐ノ紙、阿波ノ藍、薩摩ノ砂糖、廣島ノ綿、加州ノ燒物、尾州ノ燒物、肥前其他ノ燒物ナカ〳〵斯ウ云フ今日ノヤウナ人ノ一方ノ御機嫌ヲ取ッテ曲ゲルヤウナ方針ノモノデハナカッタタメニ見事是等ノモノハ世界ニ誇ルダケノモノニナッテ居ルノハ全ク其時ノ今日ノ同業組合法案ヨリハマ少シ嚴ビシイモノガ自然ト起ッテ居ッタタメニ立派ナモノニナッテ居ッタノデゴザイマス、扨今廢藩後肥後ノ米、昔ニ劣ルノデゴザイマス、尾州ノ燒物昔ニ劣ル、加州ノ九谷、薩摩燒、薩摩ノ砂糖、土佐ノ紙、悉ク信用ハ地ニ落チテ居リマス、反對者ハ何ヲ以テ此法律ニ代ル法案ガアルカト云フト何モナイト云フコトヲ明言スルノデゴザイマス、喋々述ベマセヌ、ドナタデモ御反對ヲ十分御試下サイ、私ノ意見デハナイ、全國製造家ノ代表ヲシテ如何ヤウニモ其反對ニ當ル積デゴザイマス、簡單ニ申上ゲテ置キマス

（政府委員安藤太郎君演壇ニ登ル）

○政府委員（安藤太郎君）　先程小幡君ヨリ反對ノ御意見ガゴザイマシタ、其中ノ二三ノ點ニ就キマシテ一應辯解ヲ致シマシテ諸君ノ御參考ニ供シテ置キタイト存ジマス、小幡君ノ御說ノ中ニ粗製濫造ト云フ弊害ハ十分アル、併ナガラ此法案ヲ以テ他ノ發明ヲスルヤウナモノ或ハ又製作ヲシタリ何カスル所ノ自由ヲ妨ゲルコトガアルノデ甚ダ害ニナルト云フ御話ガゴザイマシタ、是ハ誠ニ御尤デゴザイマス、粗製濫造ト云フ言葉ハ語弊ガアラウト存ジマスル、ソレハナゼト申シマスルト粗製濫造ト云フハ……粗製ト云フハ所謂粗末ナ物ト云フニ外ナラヌト存ジマス、固ヨリ結構ナ物ガアレバ粗末ナ物ガナケレバナラヌ、廉イ價ニ對シテハ物ノ粗末ナラザルヲ得ヌ譯デアリマス、今日此同業組合法案ヲ發布スル所ノ精神ハ粗末ナ物ヲ造ッテハ惡イト云フノデハナイ、粗末ナ物ト云フヨリハ不良不正ナ物ヲ造ッテ人ノ目ヲ瞞著致シマシテ折角發達シテ行クベキ貿易ヲ阻碍スルト云フコトノナイヤウニシタイト云フノデゴザイマス、粗製濫造ト申シマスルハ廉イ物ノ價ニ對シテ品物ヲ造ッテハナラヌト云フノデナク、不良不正ノ物ヲ造ラヌヤウニト云フ主意デゴザイマス、之ニ附イテ一例ヲ擧ゲテ見マスレバ先ヅまっちノヤウナモノデアリマス、彼ノ燐寸ガ粗末デアルナラバ木ノ削リ方ガ雜デアルトカ或ハ箱ノ製造ガ丁寧デナクシテ居ルトカ又ハ中ニ這入ッテ居ル所ノまっちノ軸木ノ數ガ少ナイトカ云フコトデアレバマダ宜シイガ孟買若クハ其他印度地方或ハ爪哇新嘉坡又ハ香港ナドヘ近年續々出マスル所ノまっちノ中ニ日本ノ在外領事ヨリ報告スル所ニ據レバ粗末ドコロデハナイ、マルデ實ニ役ニ立タナイモノヲ造ッテヨコス、ソレモ宜イガ火ガ出ナイ、まっちデアッテ火ガ出ナイ、アタマガ直グト落チテシマフ、少シ濕リガ來ルトアタマガ落チテシマッテ一ト擦リ擦ルト火ノ出ル同時ニ軸木ガ折レテシマフ、箱ノ製造モ或ハ極ク弱ウゴザイマシテ

少シ押サレルト直グニ曲ッテシマッテ中ノ物ハハミ出ル實ニヒドイ物ヲ送ッテヨコサレルカラ、近頃日本ノまつちハ粗製デドウシテモイカヌト云フ評判ガ立ッテ來タカラ、ドウシテモ此粗製濫造ノ弊害ヲ防ガナケレバナリマセヌ、折角發達シテ行カウト云フ物產ノ發達ヲ妨ゲルヤウニナルト云フ、斯ウ云フ報告ガアリマシタ、又內地ニ於テモ之ニ對シテ尤千萬デアルカラ此弊害ヲ矯正シナケレバナラヌト云ッテ當業者ハ離觀トナッテ働イテ居リマス、ソレカラ又羽二重ト云フヤウナモノデゴザイマシテモ之ニ糊ヲ附ケ重リヲ掛ケマシテ、ソレガ糊ヲ附ケタ、メ向フヘ行ッテ少シ濕リ氣ガ出ルト直グニ星ガ出マス、染メテ見タ所ガ更ニ役ニ立タナイ、中ニハ積返サレルノガアッテ、コチラデ持テアマシテ困ッテ居ル場合ガアリマス、ソレカラ其外漆器デゴザイマス、是等ガ水ヲ入レテ持タセルベキ漆器ガ一遍水ヲ入レルト直グニ剝レテシマッテ水ガ漏ルヤウナコトガアリマス、或ハ少シ濕ルトカ中ガ乾クトカスルト直グニ彈ケル、是等ハ精製デナイ不良ノ品デアル、又先程御話ガアリマシタ前田君カラ御演說ガアリマシタ段通デアルトカ或ハ花莚デアルトカ云フモノハ……花莚ハ藺ヲ以テ造ルベキモノデアル、又染方ヤ何カハ特別ニ注意スベキモノデアル、勿論價ノ高下ニモヨリマスガ……所ガ古疊ナドヲ壞シソレヲ染メテ表ダケハ立派ナル所ノ藺ヲ出シテ中ノ方ヲ明ケマスト實ニ見ニ堪ヘナイヤウナモノガ續々歐米各國ニ行キマシタ、ソレガ行キマシタ所ガ數百本積返サレテ雜濫シタト云フコトヲ承リマシタ、尙ホ其他ニ麥稈眞田ナドガ……帽子ヲ拵ヘル所ノ麥稈眞田ガ六十やーるト云フ鹽梅ニ寸法ガ極ッテ居ルモノヲ五十五やーるトカ五十四やーるシカ入レナイ、サウシテ其表ニ六十やーるト書附ケテ販賣致ス者ガアリマス、是等ハ粗製濫造ト云フヨリハ寧ロ不良不正ナコトヲ致シテ折角日本ノ工業者ガ熱心ニ且ツ又手先ノ巧ナル細工人ガ拵ヘマシタ所ノ特有ノ物產ニ斯樣ナ汚辱ヲ與ヘタコトカラ段々發達シテ行カラウト云フ日本ノ貿易ヲ障碍スル以上ハドウシテモ之ニ對シテ一ツノ法案ヲ拵ヘテ兎ニ角此粗製濫造ノ弊害ト云フモノヲ防遏スルト云フコトハ是ハ實ニ必要ナ事實デアリマス

〔前田正名君「簡單ニ願ヒマス、澤山申シマスコトガゴザイマス」ト述フ〕

是ハ唯內地ノミナラズ外國ニ於テモ各所ニ居リマス領事ヨリ數箇年以來續々報告シテ參リマスコトニ依ッテ最モ明デゴザイマス、此法律ハ決シテ貿易竝ニ工業者ノ自由ヤ何カヲ妨ゲルト云フノデハゴザイマセヌ、尙ホ終リニ一言シテ置キマスガ先程小幡君カラ發明ヲスルトカ或ハ特種ノ仕事ヲスル者ニ妨ニナルヤウナ御話ガゴザイマシタガ御覽ニナル通本案ノ第四條ノ部ニ特別ノ狀況ニ依テ加入スル必要ガナイト認メマシタモノハ農商務大臣ニ於テ之ヲ許スト云フコトガゴザイマスカラシテ決シテ小幡君ノ御話ノヤウナコトハアリマセヌ

〔前田正名君「簡單ニ願ヒマス、マダ大切ナコトアリマス」ト述フ〕

モウ少々……モウ直キニシマヒマス、決シテ其邊ニ懸念ガナクテモ宜カラウト存ジマス、此法案ヲ施行スルニ附キマシテ當業者ニ對シ出來得ベキタケ不都合ノナイヤウニ注意スル積デゴザイマスカラ、ドウゾ御安心ナスッテ御協贊アランコトヲ偏ニ希望致シマス

〔「討論終局」ト呼フ者アリ〕

○村田保君　本員ハ此法案ニ贊成デゴザイマス、此法案ニ附イテ反對ノ意見ガゴザイマスレバ十分ニ述ベテ戴キタイ、本員ハ其反對ニ十分當ル積デゴザイマス

○議長（公爵近衞篤麿君）　反對ノ通告ハマダアリマセヌ……別ニ御發議ガナケレバ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、御異議ガアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者數名アリ〕

御異議ガナケレバ第二讀會ヲ開キマス、之ニ御異議ガナケレバサウ決シマス

○村田保君　ドウゾ議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○子爵小笠原壽長君　贊成

〔「贊成」ト呼フ者數名アリ〕

○議長（公爵近衞篤麿君）　村田君ヨリ第二讀會ヲ開クベシト云フ動議ガアリマシタ、御異議ガナケレバ直ニ開キマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者數名アリ〕

然ラバ第二讀會ニ移リマス、第一條ヨリ第七條マデヲ問題ニ供シマス、朗讀ヲ致サセマス

〔阪本書記官朗讀〕

重要輸出品同業組合法

第一條　重要輸出品ノ生產製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要輸出品及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條　同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲スヘシ

第三條　同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ノ同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業每ニ五分ノ四以上ノ同意ヲ要ス

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地區ノ範圍及組合ニ加入スヘキ營業ノ種類ヲ指定シ若クハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四條　同業組合設置ノ地區內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニアラス

第五條　同業組合ハ法人トシテ財產ヲ所有シ及訴訟上原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第六條　同業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲メ同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○議長（公爵近衞篤麿君）　第一條ヨリ第七條マデ御異議ガナクバ原案ニ決シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

次ハ第八條

〔阪本書記官朗讀〕

第八條

第八條　同業組合及同業組合聯合會ハ諸般ノ事務ヲ處理スル爲メ組合員中ヨリ役員ヲ選擧シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

役員ハ名譽役トス

（特別委員修正案）

第八條　同業組合及同業組合聯合會ハ諸般ノ事務ヲ處理スル爲左ノ役員ヲ置クヘシ

一　組長　一名

一　副組長　一名

一　評議員　若干名

役員ハ組合員中ヨリ選擧シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○議長（公爵近衛篤麿君）　別段御發言モナイヤウデスカラ決ヲ採リマス、委員會ノ修正ヲ可トスベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者　多數

○議長（公爵近衛篤麿君）　過半數ト認メマス、次ハ第九條ヨリ第十六條マデ

（阪本書記官朗讀）

第九條　同業組合又ハ同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ檢査規程ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ檢査スルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキ檢査規程ヲ設ケシメルコトヲ得

第十條　同業組合又ハ同業組合聯合會ニ於テ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵スルノ必要アルトキハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十一條　同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算竝ニ徵收法ハ各其ノ定款ノ規程ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算貸借對照表及業務成蹟ハ毎年少クトモ一回組合會ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條　同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ業務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又主務官廳ノ諮問アルトキハ調査報告ヲ爲スヘシ

第十三條　同業組合及同業組合聯合會ハ農商務大臣ノ命シタル官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス又其ノ質問ニ對シ確實ニ答辯スヘキモノトス

第十四條　農商務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條　農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會又ハ其ノ役員ノ行爲若クハ同業組合會議及同業組合聯合會會議ノ決議ニシテ法律命令ニ違背シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若クハ同業組合及同業組合聯合會ノ目的ニ違背スルモノト認ムルトキ又ハ此ノ法律ニ依リ農商務大臣ノ命スル事項ヲ執行セサルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　同業組合及同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

二　役員ノ全部又ハ一部ノ改選

三　決議ノ取消

第十六條　同業組合及同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（公爵近衛篤麿君）　御異議ガナクバ原案ニ決シマス、次ハ第十七條

（阪本書記官朗讀）

第十七條　第四條第十三條ノ規程ニ違背シタル者若クハ同業組合ノ經費ヲ納付セサル者ハ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

過料ハ同業組合ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテハ卽時抗告スルコトヲ得

（特別委員修正案）

第十七條　第四條第十三條ノ規程ニ違背シタル者若クハ同業組合ノ經費ヲ納付セサル者ハ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

過料ハ同業組合ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其ノ徵收ニ付テハ民事訴訟法第六編ノ規程ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ效力ヲ有ス

○名村泰藏君　先程委員長カラ報告ニナリマシタガ此「區裁判所」ヲ「地方裁判所」ト云フコトニ修正サレマシタ、其修正サレタ所ノ理由ハ此頃本院デ可決ニナリマシタ古社寺保存法案ノ過料ノ所ガ矢張「地方」ト云フコトニナッタカラ是モ「地方」ト云フコトニ修正シタト云フ事柄デアリマシタガ本案ノ「區裁判所」ト云フコトハ至極法律ニ適當シタルモノデアラウト思ヒマス、何ゼカト申シマスルニ此區裁判所ノ裁判スル權限ガ罰則ニ於キマシテモ百圓ヲ超過セザル所ノモノハ區裁判所デ裁判スルコトガ出來ルト斯ウナッテ居リマス、シテ見ルト此罰則ハ二圓以上百圓以下ト斯ウアリマスルカラ殊更ニ地方裁判所ト云フコトニ改正ガナクトモ宜カラウト考ヘマスルカラ此修正ニ反對スル積デアリマスドウカ諸君御贊成ヲ願ヒタイ

○村田保君　是ハ實ニ本員モ委員ノ一人デゴザイマスガ此古社寺保存會ノ十四條ニ地方裁判所ト云フコトガアリマシタモノデスカラソレヲ實ハ取リマシタガ成程矢張唯今名村君ノ述ベラレマシタ通是ハ矢張リ區裁判所ノ方ガ宜イダラウト思ヒマス、ソレデ本員モ贊成ヲ致シマス、尤モ區裁判所ハ近クデ便利デアリマスガ地方裁判所ダト餘程遠クヘ行カナクテハナリマセヌカラ不便デアリマス、ソレデ成ルタケ便利ニスル方ガ宜カラウト思ヒマスカラ本員ハ贊成致シマス

○議長（公爵近衛篤麿君）　チョット名村君ニ申シマスガサウスルト地方裁判所ト云フノヲ、モトノ區裁判所ノ儘ニシテ置カウト云フダケノコトデアリマスカ

（名村泰藏君「ハイ」ト述フ）

サウスルト第一項ノ方ハ矢張委員ノ修正ニ御不同意ハナイノデスカ

○名村泰藏君　此一項ノ方ハ更ニ異議ナシ又「抗告ヲナスコトヲ得」ト云フ是ニモ異論ハアリマセヌ唯「地方」ガ「區」ト元ノ儘ニ殘リマスレバ一向差支ハナイ

○議長（公爵近衛篤麿君）　サウスルト名村君ノハ一種ノ修正ト見テ宜カラウト思ヒマス

○名村泰藏君　ソレヂャア一種ノ修正トシテ提出致シマス

○議長（公爵近衛篤麿君）　委員會ノ修正ノ中「地方裁判所」ト云フノヲ元ノ原案ノ「區裁判所」ト云フコトニナルダケノ修正デスカ

○名村泰藏君　左樣デゴザイマスドウカ贊成ヲ願ヒマス

○子爵曾我祐準君　委員長トシテ先刻委員ノ決議ヲ報告致シマシタガ其トキニモ御斷リ申シマシタ通格別大シタ理由ガアッタト云フ譯デモナク先ヅアレニ依ラウト云フコトデアリマシタ、ソレデ尙ホ實ハ調査ヲスル積デアリマシタ所ガ時間ガナイ所カラ其儘報告ヲ致シマシタ、本員モ名村君ニ贊成シマス、ドウモ其方ガ宜カラウト思ヒマス、原案ノ方ガ……

○小原重哉君　名村君ノ修成說ニ贊成

○子爵日野西光善君　贊成
○子爵岡部長職君　是ハ修正ト云フコトニナリマセヌデモ固ヨリ原案ノ「區裁判所」ト云フコトニスルノデスカラ詰リ原案ニ附イテ決ヲ御採リナサッタラ宜シイト思ヒマス
○議長（公爵近衛篤麿君）　其前後ガ違ヒマス、前後ガ修正ノ通ト云フノデアリマス
○子爵本荘壽巨君　私モ「地方裁判所」ト云フヨリハ「區裁判所」トナル方ガ便利モアリマセウカラ「區裁判所」トスルコトニスルト云フ説ニ贊成
○西村亮吉君　名村君ニ贊成
○菊池武夫君　贊成
○子爵岡部長職君　贊成
○武井守正君　贊成
○男爵小澤武雄君　贊成
○子爵一柳末德君　贊成
○議長（公爵近衛篤麿君）　チョット念ノタメニ申シマスガ唯今ノ名村君ノハ全部委員ノ修正ニ他ノ所ハ不同意ハナイガ唯此「地方裁判所」ト云フノヲ「區裁判所」トスルト云フダケノ修正デアルカラ贊成ノ御方ハ其御心得デ願ヒタイ
○子爵堤功長君　贊成
○久保田讓君　贊成
○中村雅眞君　贊成
○男爵西五辻文仲君　贊成
○山田卓介君　贊成
○子爵小笠原壽長君　贊成
○男爵本田親雄君　贊成
○男爵楫取素彦君　贊成
○議長（公爵近衛篤麿君）　定規ノ贊成ガアリマス、名村君ノ御修正ハ能ク御分リニナッタト思ッテ居リマスガ……
（「分リマシタ」ト呼フ者アリ）
然ラバ名村君ノ修正ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者　多數
○議長（公爵近衛篤麿君）　過半數ト認メマス、卽チ名村君ノ修正ニ決シマス、次ニ十八條

（阪本書記官朗讀）

第十八條　同業組合若クハ同業組合聯合會ノ檢査證ヲ營業品ニ僞リテ附シタル者又ハ僞造若クハ模造ノ檢査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

（特別委員修正案）

第十八條　同業組合若クハ同業組合聯合會ノ檢査證ヲ營業品ニ僞リテ附シタル者又ハ僞造若クハ模造ノ檢査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長（公爵近衛篤麿君）　委員ノ修正ニ御異議ナケレバ其通決シマス
（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
○男爵藤村紫朗君　少シ伺ヒマス、唯今十七條ノ採決ノコトニ附イテチョット伺ヒマス、名村君ノ「地方裁判所」ト云フヲ「區裁判所」ト云フ修正ノ點ヲ御採決ニナリマシタガサウ致シマスルト委員ノ修正説ハ前後ノ委員ノ修正ハドウナルノデスカ

○議長（公爵近衛篤麿君）　トモニ成立ッタノデス、ソレガタメニ名村君ニ確カメテ委員ノ修正ノ通デアッテ其中ノ「地方裁判所」ト云フコトガ「區裁判所」ニナルト云フダケノ修正デアルカト云フコトヲ確メタ所ガソレデ宜シイト云フノデソレデ定規ノ贊成ガアッタモノデスカラ委員ノ修正ト云フモノモ共ニ成立ッテ居ルノデアリマス
○男爵藤村紫朗君　サウデスカ
○議長（公爵近衛篤麿君）　第十八條ハ御異議ガナイノデスカ
（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
次ハ第十九條

（阪本書記官朗讀）

附則

第十九條　輸出ニ屬セサル物品ト雖同業者ニ於テ必要ト認ムル時ハ仍本法ヲ準用スルコトヲ得

○松岡康毅君　本員ハ此委員會デ加ヘラレマシタ附則ノ十九條ト申ス唯今ノ議題ニナリマシタ分ハ之ヲ刪除致シタイト云フ考デゴザイマス、其譯ハ一體製造ヤ總テ此營業ニ就イテノ自由ト云フモノハ成ルベク尊重センナランコトデゴザイマスケレドモ其外國輸出ノ重要ナモノニ就イテハ卽今ノ所弊害モアル種々實例モアッタト云フコトハ先刻政府委員モ言ハレマシヤウナ次第デ其邊ノ所カラ此輸出ノ分ニ附イテ本案ヲ立テラレマシタ事柄ハ隨分議論モアリマセウケレドモ卽今ノ所デハ此病ニ對スル藥ト見テ本員ナドモ贊成ヲ致シマシタ然ルニ內國ニ於テ生產製造販賣ト云フ此百種ノ營業ノ事柄ヲ斯ヤウニ取締ヲセンナラヌト云フ理由ハドコニアルノデアラウカ、先刻委員長ノ報告ニ於キマシテモ其邊ノ必要ト云フコトノ御説明ガ餘リ十分ニモナカッタヤウデゴザイマスカラ其必要ナ點モ本員等ハ見マセヌデゴザイマス、其中此一體ノ所ニ涉リマスデゴザイマセウガ、前田君カラ封建時代ニハ燒物トカ紙トカ云フモノハ株式見タイノモノガアッタカラ宜カッタト云フ御説モアリマシタ、是ナドハ甚ダ疑問ニ屬スベキモノデ競爭ト云フモノガアッテ發達スルト云フコトハ申スマデモナイ又小サイ少シ位ノモノニシヤウカウト云フノハ……適當シタ所モアリマスケレドモ一體ニ此盛大ニモノヲシテ行カウト云フニハ競爭ト云フコトガ一番ノ宜イモノニ違ヒナイ、其前田君ノハ多分外國輸出品ニ附イテノ御説デゴザイマシタラウガ其論法ヲ以テ直ニ內國ノ生產製造販賣所謂十九條ニ書キマシタ輸出ニ屬セザル物品アラユル日本中ニアル此物柄ニ就イテ本法ヲ準用スルコトヲ得ルト云フ規則ヲ定メルト云フノハドウモ必要ハ見出サナイ或ハアルカモ知レマセヌケレドモ左程ニセンナラヌ程ノ必要ハ未ダ見マセヌ、斯ウ云フコトヲ締括リヲスルト云フト一利ガアレバ必ズソレニ對シテ又弊害ト云フモノガゴザイマスカラ此法案ト云フモノハ外國輸出ノ重要ナ品ニ附イテ設ケル、ソレハ種々ノ弊害ガアッタカラト云フ所デ論理モト云フ所デ論理ニ通リマスケレドモ內國ノ物ニ於テハ左程ノ弊害ト云フモノヲ何人モ未ダ詳ニセズ明言シタ者モナイ、然ルニ斯ウ云フ外國輸出ノ品ト云フモノヲ法律ニ書クノニ其序ニ內國中ノ物ヲ一モ漏サズニ茲ニタッタ一筆ニ書イテシマウト云フコトハ如何ニモ大膽、若シ內國ノ斯ウ云フ總テノ營業上ニ關シテ取締ヲ附ケンナラヌト云フナラバ政府ニ於テ十分ニ調査討議ヲ盡シテ法律ヲ拵ヘテ宜シイコトデアラウト思ヒマス、然ルニ本案ノ如キ所ニ俄ニ附則トシテクッ附ケテ此一箇條デ斯ウ云フモノヲ漠然ト申セバ漠然デゴザイマスルケレドモ餘リ區域モ廣キニ失スル旁〻斯ウ云フモノハ是非必要ト云フノナラバ十分考案ヲ盡シタ上デ獨立ノ法律ヲ立ルノガ宜シウゴザイマス、サモナクシテ斯樣ナ序ノ時ト云フヤウナ一筆位デコンナコトヲ拵ヘテハ

如何ニモ危險ナコトデゴザイマスカラ本員ハ元トヨリ原案ニナカッタ委員デ加ヘタ十九條ト云フモノハ削除ヲシタイト云フ意見デゴザイマス

○子爵曾我祐準君　チョット委員長トシテ誤ヲ正シマスガ松岡君ハ如何ナル御議論カ存ジマセヌガチョット是ハ間違ッテハ居リマセヌカ、アナタノ御議論ハ之ヲ誤解ナスッテハ居リマセヌカ「輸出ニ屬セサル物品ト雖モ同業者ニ於テ必要ト認ムル時ハ」ト云フノハ今松岡君ノ御議論デハ無理カラデモ讀マナケレバナラヌヤウニ御解釋ニナッタガ同業者ニ於テ必要ト認ムル時ハ事實認メナイト仰シヤルガ成ル程松岡君ハ御認ナサラヌデセウガ同業者ガ認メル時ヲ此法律ニハ書イテアル、ソレダケハドウゾ間違ノナイヤウニ……

○松岡康毅君　一言辯ジテ置キマス、私モ固ヨリ文字ヲ讀ンデ申シテ居ルノデゴザイマス、又此本法ノ所ニ於キマシテモサウ一カラ十マデ悉ク漏サズニセンナラヌト云フ程ニナッテ居リマセヌ、不注意ノアルコトハ無論デゴザイマス、又附則ノ所ニ書イテアル所ハサウ見ルヨリ仕方ガナイ、今日ニ於テハ斯ウ云フ規則ダトカ多數決ト云フコトガ隨分流行デ多クハ成立チ易イ時勢デアリマスカラ斯ウ云フモノガ出マシタナラバソレノ據リ所ノ實際ニ於テ種々ノ弊害ガ起リ易イト云フ懸念ガアルノデゴザイマス、曾我君ノ御懸念カ御忠告カ固ヨリ文字ヲ讀ンダ上デゴザイマスカラ敢テ間違ッテハ居ナイ積デゴザイマス

○前田正名君　唯今ノ御説ハ御無理ガナイコトデゴザイマス、他ノコトハ御承知モゴザイマセウガ此實業界ノコトハ多分御分リガナイダラウト御察シ申シマス、此同業者ガ常ニ此府下ニ於テモ六百バカリアルノデアル、ソレ等ガ希望シテ居ルノデゴザイマス、例ヘバ一品一二ノ粗製濫造ヲスルタメニ一二ノ組合ヲ拵ヘテ他ノ方ノ奴ガソレニ組セヌタメニ大イニ迷惑ヲ受ケテ居ルノデゴザイマス、實ハ此議場デ申スコトデハゴザイマセヌケレドモ府下ニモ六百有餘ノ組合ガアッテ唯農商務ニ於テ重要輸出品ト云フモノヲ肩ニ同業組合法案ノ上ニ書カレタノハ實ニ一同遺憾ニ考ヘテ居ルノデゴザイマス、已ムヲ得ズ此十九條ヲ入レテ此希望スル者ハ農商務大臣ニ委任サレルヤウニ漸クナッタノデゴザイマス、尚ホ一言申上ゲマスガ輸出品ト申シマスト何所ノ地方ニイラッシッテモ之ガ輸出品ト云フモノハナイト言ッテ宜シウゴザイマス、輸出品ト云フモノハ神戸、横濱東京ニ來テ始テ輸出スルノデゴザイマスト云フコトヲ製造家ガ知ルヤウナモノデアッテ地方ニ於テ之ヲ輸出スルト云フコトヲ知ルヤウナ力ノアル製造家ハナイノデゴザイマス、チョット御參考ノタメニ申上ゲテ置キマス

〔政府委員(安藤太郎君)　唯今同業者ニ於テ必要ト認メマスルト云フコトガ……〕

○政府委員(安藤太郎君演壇ニ登ル)　唯今同業者ニ於テ必要ト認メマスルト云フコトガ……

〔前田正名君「モウ宜シイ」ト述フ〕

少々一言斷ッテ置カネバナラヌ……

〔「モウ宜シイ」ト述フル者アリ〕

同業者ガ必要ト認ムル時ハト云フ文字ノコトニ就イテ簡單ニ一言述ベテ置キマスルガ是ハ同業者ガ斯ウ云フ組合ヲ拵ヘタイト云フ考デ必要ト認メテ出願シテ農商務大臣ノ認可ヲ得ニ參リマシタトキニ農商務大臣ハ之ニ許スベキモノデアルカ許スベカラザルモノデアルカト云フコトヲ認定スルコトハ農商務大臣ニアルノデアリマシテ頭カラ必要ト認メテ來レバ直グ之ヲ受領シテ之ヲ其通ニ行フト云フノデアリマス、之ニ一言申上ゲテ置キマス

〔村田保君「反對ハナイデゴザイマセウ」ト述フ〕

○議長(公爵近衛篤麿君)　委員會ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者　多數

○議長(公爵近衛篤麿君)　過半數ト認メマス、是ニテ二讀會ヲ了リマシタ

○村田保君　ドウゾ議事日程ヲ變更サレテ直チニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ……

○伯爵大原重朝君　贊成

〔「贊成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤麿君)　直ニ第三讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤麿君)　然ラバ第三讀會ヲ開キマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤麿君)　御異議ガナクバ原案ニ決シマス、是ニテ確定致シマス、次ハ森林法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、提出文ヲ朗讀致サセス

森林法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十年三月十六日

衆議院議長鳩山和夫

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

森林法

第一章　總則

第一條　此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及民有林ヲ謂フ

第二條　原野山岳其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章　營林ノ監督

第三條　森林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條　前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第五條　前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條　森林ヲ開墾セムトスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章　保安林

第八條　森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

一　土砂壞崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所

二　飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所

三　水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所

四　頽雪、墜石ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル箇所

五　水源ノ涵養ニ必要ナル箇所

六　魚附ニ必要ナル箇所
七　航行ノ目標ニ必要ナル箇所
八　公衆ノ衞生ニ必要ナル箇所
九　社寺名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第九條　保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第十條　保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條　府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ニ諮問スヘシ

地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ニ諮問セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者竝ニ大林區署土木監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ掲示スヘシ

第十三條　保安林ニ編入ノ爲メ地方森林會ニ諮問セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條　保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以內ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條　府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條　保安林ノ編入解除ハ主務大臣之ヲ決定ス

第八條第一乃至第五ニ該當スル保安林ノ編入ハ第十一條ノ規程ニ依ラス主務大臣之ヲ定ムルコトヲ得

第十七條　保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條　保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十九條　保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　主務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止スルコトヲ得

第二十二條　主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限シ其ノ他保安林編入ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第二十三條　主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條　前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條　保安林ニ編入セラレタル爲メ損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ第二十一條ニ依リ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限リ其ノ利益ヲ受クル者ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得但シ御料林、國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニアラス

損害ノ算定方法及補償ノ負擔ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條　前條ノ補償ハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得

第二十七條　保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十八條　官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第二十九條　從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四章　森林警察

第三十條　他人ノ森林內通路ニアラサル所ニ濫リニ牛、馬、車、橇ヲ牽入レ若ハ鋸、斧ヲ携帶シテ立入ルコトヲ得ス

第三十一條　他人ノ森林內ニ於テハ濫リニ造材ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ屆置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノヽ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十三條　所有主ノ氏名ヲ記セサル鋸又ハ斧ハ他人ノ森林內ニ於テ使用スルコトヲ得ス

第三十四條　森林內ニ於テハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得スシテ日出前日沒後ニ伐木造材又ハ運材ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條　貯藏若ハ運搬中ノ木材ニ對シ又ハ伐木造材若ハ木材賣買ヲ業トスル者ノ手板帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ檢查アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十六條　森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得スシテ森林內ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條　森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十八條　森林ニ於テ濫リニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帶スルコトヲ得ス

第三十九條　森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ蟲害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第四十條　森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ蟲害アルトキハ地元人民ハ其ノ消防又ハ驅除ニ從事スヘシ

第五章　罰則

第四十一條　森林ニ於テ其ノ主副產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十二條　森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一　根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ

二　贓物ヲ原料トシテ森林內又ハ其ノ近傍ニ於テ木炭、樟腦、椎茸、松根油

其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

三　贓物ヲ燃料トシテ森林内又ハ其ノ近傍ニ於テ鑛物ノ採取精製若ハ石灰煉化石瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ

四　犯罪ヲ容易ナラシムル爲メ船舶ヲ使用シタルトキ

五　保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六　林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七　三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八　契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九　差押ノ贓物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ

第四十三條　森林竊盜ハ未タ遂ケサルモノト雖既遂ト齊シク論ス

第四十四條　森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十五條　他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條　他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十七條　濫リニ他人ノ森林内ニ於テ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　家屋其ノ他ノ建物ヲ設ケタルトキ

二　溜池、通路若ハ水路ヲ設ケタルトキ

三　纜（サヌキ）、修羅（シュラ）等出材ノ設備ヲ爲シタルトキ

四　牛馬ヲ放牧シタルトキ

第四十八條　森林ノ爲メ設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十九條　立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條　第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第五十一條　保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第五十二條　第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　第三十條第三十一條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　第三十六條第三十七條又ハ第三十八條ニ違背シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　第三十二條第三十三條及第三十四條ニ違背シ又ハ第四十條ノ場合ニ於テ理由ナクシテ當該吏員ノ指命ニ應セサル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

第五十六條　此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第六章　雜則

第五十七條　此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十八條　森林竊盜ノ贓額及第五十一條ノ木材代價ハ豫メ主務大臣ノ定ムル林産物價格標準調書ニ依リ之ヲ計算スヘシ

第五十九條　森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、竊其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第六十條　此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅怠納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第六十一條　森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第六十二條　前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限リ翌年ヨリ十五箇年間地租ヲ免ス

原野山岳又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル

第六十三條　北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條　此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

（政府委員高橋琢也君演壇ニ登ル）

○政府委員（高橋琢也君）　森林法案ノ提出ニ就キマシテハ農商務大臣ヨリ提出ノ理由ヲ申上ゲル筈デゴザイマスル、然ルニ今朝ハ餘義ナキ差支ガゴザイマシテ本員ヨリ代ッテ申上ゲルヤウニト云フコトデゴザイマス、然ルニ森林法案ノ今日デ必要デゴザイマスルト云フコトハ最早諸君ノ能ク御承知ノコトデモゴザイマスルシ又提出ノ理由ニ至リマシテハ理由書ニ盡シテゴザイマスルト存ジマスルデ別段ニ喋々申上ゲマセヌ

○議長（公爵近衞篤麿君）　御異議ガナクバ次ノ日程ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧

○伯爵大原重朝君　是ハ定數ニシテ議長ノ指名ヲ……

○男爵西五辻文仲君　贊成

○議長（公爵近衞篤麿君）　大原伯爵ノ動議ニ御異議ガナクバ、其通致シマス

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（公爵近衞篤麿君）　次ハ國有土地森林原野下戻法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ノミヲ朗讀致シマス

（阪本書記官朗讀）

國有土地森林原野下戻法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十年三月十二日

貴族院議長公爵近衞篤麿殿

衆議院議長鳩山和夫

（左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス）

國有土地森林原野下戻法

第一條　現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若ハ其ノ立木竹ニ付所有權、收益權又ハ分收權ヲ有スヘキ證據アル者ハ明治三十二年十二月三十一日迄ニ府縣知事ヲ經テ其ノ權利ノ認定ヲ主務大臣ニ申請スルコトヲ得

第二條　左ノ各號ニ該當シ民有ト認ムルトキハ其ノ權利ノ認定ヲ爲スヘシ

一　舊公簿若ハ公書上民有タル證アルモノ

二　高受又ハ納稅ノ證アルモノ

三　賣買、質入、書入、寄附等ノ證アルモノ

四　官ヨリ拂下又ハ下附ノ證アルモノ

五　木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ

六　私費植付ノ證アルモノ

七　主副產物ヲ收益シタル證跡アルモノ

八　其ノ他從來ノ成蹟慣行上民有ト認ムヘキ證跡アルモノ

第三條　第一條ノ申請以前ニ於テ既ニ賣買、讓與、交換又ハ費消シタルモノニ就テハ其ノ補償ヲ要求スルコトヲ得ス

第四條　第一條ノ申請ニ依リ主務大臣ノ認定ヲ受ルモ公用中ニ係ルモノハ其ノ公用ヲ廢シタル後ニ非サレハ權利ヲ行使スルコトヲ得ス

第五條　收益權ヲ認定シタル場合ニ於テ政府ハ權利者ノ認諾ヲ經テ其ノ土地ノ幾部分ヲ所有セシメ殘部ニ對スル收益權ヲ解除スルコトヲ得

第六條　御料ニ屬スル土地森林原野又ハ其ノ立木竹ニ付所有權、收益權又ハ分收權ノ認定ニ關シテモ本法ヲ適用ス

第七條　此ノ法律ニ依リ主務大臣ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條　第一條ニ掲ケタル事項ニ關シ此ノ法律施行以前ニ差出シタル願書ハ此ノ法律ニ依リタル申請書ト看做ス

第九條　此ノ法律ハ北海道ニ施行セス

（政府委員高橋琢也君演壇ニ登ル）

○政府委員（高橋琢也君）　國有土地森林平野下戻法案デゴザイマスガ、本案ハ誠ニ簡單ナ條項デゴザイマスケレドモ官民ノ間ニ關係致シマスル所ハ甚ダ重大ナ問題デゴザイマシテ殊ニ衆議院ニ於キマシテハ多數ノ修正ガゴザイマスル、此修正ニ對シマシテハ或部分ハ政府デモ不同意ハ申シマセヌデゴザイマスガ、或部分ニ於キマシテハ到底政府デハ同意ヲ致シ兼ネマス、其條項ノ不同意ヲ致シマスル所ヲ申上ゲマスルト此第一條ノ「所有權」ノ下ニ「收益權」ト云フモノヲ入レマシタ、此廉デゴザイマス、ソレカラ第二條ノ第七項ノ「主副產物ヲ收益シタル證跡アルモノ」此廉、ソレカラ第三ニハ第五條ノ「收益權ノ認定シタル場合ニ於テ政府ハ權利者ノ認諾ヲ經テ其ノ土地ノ幾部分ヲ所有セシメ殘部ニ對スル收益權ヲ解除スルコトヲ得」トゴザイマス、是ガ同意ノ出來得マセヌ條項デゴザイマス、其次ハ第六條ノ「御料ニ屬スル土地森林原野又ハ其ノ立木竹ニ付所有權收益權又ハ分收權ノ認定ニ關シテモ本法ヲ適用ス」ト斯ウゴザイマス、此四箇條ト云フモノハ政府デハ絶對的反對ヲ致サナケレバナラヌモノデゴザイマス、併シ何レ委員ヘ御付託ニナリマセウデ委員會ニ於キマシテ其反對ノ點ハ詳シク申上ゲルコトニ致シマス

○議長（公爵近衞篤麿君）　別段御質問モナクバ次ノ日程ニ移リマス

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧

○子爵高野宗順君　此案ハ矢張前ノ本日ノ議事日程ニ上ッテ居リマス、森林法案ト同一ノ委員ニ付託スルコトヲ希望致シマス……

○小原重哉君　贊成

（「贊成」ト呼フ者アリ）

○議長（公爵近衞篤麿君）　今ノ同一委員ト云フノニ御異議ガナクバ其通致シマス

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（公爵近衞篤麿君）　時刻ニナリマシタカラ休憩致シマス

午前十一時五十四分休憩

午後一時十五分開會

○議長（公爵近衞篤麿君）　報告ガゴザイマス

（有賀書記官朗讀）

明治三十年度歲入歲出總豫算ニ關スル兩院協議會貴族院委員ニ於テ議長ニ子爵谷干城君副議長ニ箕作麟祥君當選セラレタリ

委員長副委員長左ノ通當選セラレタリ

震災地方租稅特別處分法案特別委員會

委員長　男爵千家尊福君　副委員長　平田東助君

議院法中改正法律案特別委員會

委員長　子爵岡部長職君　副委員長　三浦安君

登錄稅法中刪除法律案特別委員會

委員長　男爵安場保和君　副委員長　子爵由利公正君

私設鐵道條例中改正法律案外二件特別委員會

委員長　子爵曾我祐準君　副委員長　子爵堀田正養君

○議長（公爵近衞篤麿君）　今朝御委託ニナリマシタ森林法案外一件特別委員ノ氏名ヲ御報告致シマス、森林法案外一件特別委員、子爵曾我祐準君、子爵岡部長職君、子爵松平康民君、松岡康毅君、男爵船越衞君、村田保君、沖守固君、武井守正君、古市公威君、是ヨリ會議ヲ開キマス、此日程ニハ國稅徵收法案ガ出テ居リマスガ關稅ノ定率法案ト云フモノガ提出ニナッテ居リマス、是ハ隨分急ヲ要スル案デゴザイマスルシ又箇條モ隨分多ウゴザイマスカラ此際此國稅徵收法案ノ前ニ議スルト云フコトガ宜カラウト思ヒマス、別ニ御異議ガナクバ……

（「異議ナシ」ト述フル者多シ）

然ラバ其會議ヲ開キマス、關稅定率法案、通牒文ノミ朗讀致サセマス

（阪本書記官朗讀）

關稅定率法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也

明治三十年三月十七日

衆議院議長鳩山和夫

關稅定率法

第一條　外國ヨリ輸入スル物品ニシテ附屬稅表第一種ニ屬スルモノハ同表ノ稅率ニ依リ輸入稅ヲ課シ第二種ニ屬スルモノハ輸入稅ヲ免シ第三種ニ屬スルモノハ輸入ヲ禁ス

第二條　物品ノ課稅價格ハ其ノ仕入地、產出地若クハ製造地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入港ニ到著スル迄ノ諸費ヲ加ヘテ算定ス

第三條　附屬稅表ニ揭クル物品ニシテ從價稅ニ代フルニ從量稅ヲ以テスルヲ便宜トスルモノハ勅令ヲ以テ其ノ物品及細別ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ從量稅ハ前條ノ算法ニ依リ六箇月以上ノ平均價格ヲ算出シ附屬稅表ノ稅率ニ基キ之ヲ定ムヘキモノトス

第四條　附屬稅表中二箇以上ノ稅率ヲ適用シ得ヘキ物品ニ對シテハ其ノ最高ノ率ニ從テ課稅ス

第五條　左ノ物品ハ輸入稅ヲ課セス

第一　御料品

第二　帝國陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器彈藥及爆發物

第三　海軍艦船

第四　帝國ニ派遣セラレタル各國公使ニ屬スル自用品

第五　勳章賞牌

第六　記錄文書其ノ他ノ書類

第七　商品ノ見本但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル

第八　旅具（旅客ノ携帶スルモノ）

第九　官立公立ノ博物館及物品陳列所ヘ永久陳列ノ爲ニ輸入スル物品

第十　內國產ニシテ五箇年以內ニ外國ヨリ積戾リ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ煙草類酒類ヲ除ク

第十一　修繕ノ爲メ外國ニ輸出シ再ヒ輸入スルモノ

第七號第八號第九號ハ物品ノ稅關ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル

第十一號ノ物品ハ輸出ノ際豫メ再輸入ノ期限ヲ定ムヘシ

第六條　左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ滿六箇月以內ニ再ヒ輸出スルモノハ輸入稅ヲ課セス但シ輸入ノ際其ノ輸入稅金ニ相當スル金額ヲ預入レ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ

第一　修繕ノ爲メ一時輸入スルモノ

第二　學術研究旅行者使用ノ爲メ一時輸入スルモノ

第三　試驗品トシテ一時輸入スルモノ

第四　商人、工業者及注文取集旅商ノ見本品トシテ一時輸入スルモノ

第五　演劇其ノ他興行用ノ爲メ一時輸入スルモノ

第七條　附屬稅表中改正ヲ要スルトキハ施行期日ヨリ少ナクモ六箇月前ニ之ヲ公布ス

附則

第八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

輸入稅表

第一種　有稅品

番號	品名	從價稅率
	第一類　兵器、時計、學術器具及機械類	
一	大砲、小銃、拳銃、刀劍、砲彈、裝藥其ノ他諸兵器	割五分
二	權衡及尺度	一、〇
三	晴雨計	一、〇
四	雙眼鏡	二、五
	甲　革ヲ以テ裝セ若クハ塗糅シタルモノ	
五	乙　其ノ他各種	一、五
六	置時計、掛時計及同部分品	二、〇
七	鐵盤、時計及同部分品（航海用ノモノ）	二、〇
八	坩堝（各種）	一、〇
九	刃物（別項ニ揭ケサルモノ）	一、〇
一〇	潛水器及同部分品	二、〇
一一	電燈器械及同部分品	一、〇
一二	消防器及同部分品	一、〇
一三	農具、工匠具及同部分品	一、〇
一四	樂器及同附屬品	一、五
	理學器、化學器、製圖器、測量器外科器其ノ他諸學術器（別項ニ揭ケサルモノ）	
一五	寫眞器及同部分品	一、〇
一六	鐵道機關車及同部分品	一、五
一七	諸器械及同部分品（別項ニ揭ケサルモノ）	一、〇
一八	顯微鏡及同部分品	一、〇
一九	蓄音器及同部分品	二、五
二〇	喇筒器及同部分品	一、〇
二一	縫衣機及同部分品	一、〇
二二	眼鏡及同部分品	一、〇
二三	獵銃及同附屬品	二、五
二四	汽鑵、汽機及同部分品	一、〇
二五	電話機及同部分品	一、〇
二六	望遠鏡	一、〇
二七	寒暖計	一、〇
二八	印字機	一、〇
二九	懷中時計懷中時計側及同附屬品	三、〇
	甲　金製及白金製ノモノ	二、五
	乙　銀製及其ノ他各種	一、五
三〇	懷中時計機械及同部分品	
三一	第二類　飲食物	
	礦水、檸檬水、曹達水ノ如キ酒精ヲ含マサル諸飲料	一、〇
三二	乾麵包	
	甲　船用ノモノ	一、〇
	乙　菓子製ノモノ	一、五
三三	乳油	一、五
三四	乾酪	一、五
三五	咖啡	二、〇
三六	糖菓類	二、五
三七	生卵	一、〇
三八	麥粉其ノ他穀粉、澱粉類	一、〇
三九	生菓、乾菓及別項ニ揭ケサル核子	一、五
四〇	ハム及ベーコン	一、五
四一	鮮肉	一、〇
四二	乳膏及乳粉	一、五
四三	胡椒	一、五
四四	食鹽（海鹽ト礦鹽トヲ別タス）	
	甲　粗製ノモノ	一、〇
	乙　精製ノモノ	一、五
四五	鹹魚	一、五
四六	鹹肉	一、〇
四七	石花菜	一、〇
四八	茶	二、五
四九	生菜、乾菜及鹹菜	一、〇
五〇	其ノ他各種ノ食物	一、五
	第三類　衣服及附屬品	
五一	長靴及短靴（各種）	二、〇
五二	袴釣	
	甲　絹製及絹入ノモノ	二、五
	乙　其ノ他各種	二、〇
五三	釦釦、扣子、鈎子類（飾釦釦ヲ除ク）	二、〇
五四	襟卷	
	甲　絹製及絹入ノモノ	二、五
	乙　其ノ他各種	二、〇
五五	手袋（各種）	二、〇
五六	帽子	
	甲　金銀珠玉入ノモノ	三、〇
	乙　絹製及絹入ノモノ	二、五
	丙　其ノ他各種	二、〇
五七	襟飾	
	甲　絹製及絹入ノモノ	二、五
	乙　其ノ他各種	二、〇
五八	肩衣	

甲　毛製刺繍、絹製及絹入ノモノ　二、五
乙　其ノ他各種　二、〇
五九　繻袢　二、〇
六〇　足袋（長短ヲ別タス、メリヤス製ノモノ）
甲　綿製、毛製及毛綿製ノモノ　二、〇
乙　絹製及絹入ノモノ　二、五
丙　其ノ他各種　二、〇
六一　飾釦（繻袢ノ襟袖胸ニ用ヰルモノ）
甲　金製及白金製ノ（珠玉ヲ除メタルト否トヲ別タス）　三、〇
乙　其ノ他各種　二、五
六二　粧飾料品（平紐、組紐、レース、總、ノッツ、スタールス、金屬絲及金屬紐其ノ他別項ニ掲ケサル各種）
甲　金銀製及金銀入ノモノ　三、〇
乙　絹製及絹入ノモノ　二、五
丙　其ノ他各種　二、〇
六三　肌衣（上下ヲ別タス、メリヤス製ノモノ）
甲　綿製、毛製及毛綿製ノモノ　二、〇
乙　絹製及絹入ノモノ　二、五
丙　其ノ他各種　二、〇
六四　雨衣
甲　絹製及絹入ノモノ　二、五
乙　其ノ他各種　二、〇
六五　其ノ他各種ノ衣服及附屬品
甲　絹製及絹入ノモノ　二、五
乙　其ノ他各種　二、〇

第四類　藥材、化學藥及製藥

六六　石炭酸　一、〇
六七　撒里矢爾酸　一、〇
六八　酒石酸　一、〇
六九　酒精（アルコール）　四、〇
七〇　明礬　一、〇
七一　安知歇絨林　一、〇
七二　安知必林　一、〇
七三　檳榔子　一、〇
七四　白朮　一、〇
七五　次硝酸蒼鉛　一、〇
七六　晒白粉（格魯兒石灰）　一、〇
七七　硼砂（硼酸曹達）　一、〇
七八　龍腦及艾片　一、〇
七九　桂皮　一、〇
八〇　桂皮油　一、〇
八一　霍香　一、〇
八二　規那皮　一、〇
八三　聖古尼涅（鹽酸若クハ硫酸）　一、〇
八四　辰砂（赤色硫化汞）　一、〇
八五　丁香　一、〇
八六　鹽酸古加乙涅　一、〇
八七　肝油　一、〇
八八　寫眞用古魯曹謨及附屬ノ沃度意撒兒　一、〇
八九　古倫僕　一、〇
九〇　牛黃　一、〇
九一　阿仙藥及檳榔膏　一、〇
九二　健質亞那（龍膽）　一、〇
九三　人參　一、〇
九四　倔里設林　一、〇
九五　亞拉昆亞護謨　一、〇
九六　安息香　一、〇
九七　麒麟血　一、〇
九八　沒藥　一、〇
九九　乳香　一、〇
一〇〇　苦草　一、〇
一〇一　沃度仿謨　一、〇
一〇二　吐根　一、〇
一〇三　葯剌巴根　一、〇
一〇四　醋酸鉛（鉛糖）　一、〇
一〇五　甘草　一、〇
一〇六　麻黃　一、〇
一〇七　過酸化滿俺　一、〇
一〇八　莫兒比涅（鹽酸若クハ硫酸）　一、〇
一〇九　麝香　一、五
一一〇　麝香（人造ノモノ）　一、〇
一一一　甘松　一、〇
一一二　赤燐　一、〇
一一三　鹽酸必魯加兒必涅　一、〇
一一四　貌羅謨剝篤亞斯　一、〇
一一五　格魯兒酸剝篤亞斯　一、〇
一一六　沃度剝篤亞斯　一、〇
一一七　木香　一、〇
一一八　規尼涅（鹽酸若クハ硫酸）　一、〇
一一九　泊芙蘭　一、〇
一二〇　大黃（塊粉ヲ別タス）　一、〇
一二一　硝石（硝酸剝篤亞斯）　一、〇
一二二　珊篤寧　一、〇
一二三　撒兒沙巴利剌　一、〇
一二四　攝綿支奈　一、〇
一二五　沙剌克　一、〇
一二六　曹達灰　一、〇
一二七　重炭酸曹達　一、〇
一二八　苛性曹達　一、〇
一二九　結晶曹達（洗濯曹達）　一、〇
一三〇　撒里矢爾酸曹達　一、〇
一三一　蒼朮　一、〇
一三二　紫梗　一、〇
一三三　ウアスリン　一、〇
一三四　黃芩　一、〇
一三五　其ノ他諸藥材、化學藥及製藥　一、〇
一三六

第五類　染料、彩料及塗料

一三七　アリザリン染料　一、〇
一三八　アニリン染料　一、〇
一三九　紺青（乾濕ヲ別タス、鑛物ヨリ製シタルモノ）　一、〇
一四〇　洋紅　一、〇
一四一　酸化古拔爾篤　一、〇
一四二　呀囉蟲　一、〇
一四三　花緣青　一、〇
一四四　沒食子及五倍子　一、〇
一四五　雌黃　一、〇
一四六　金液、銀液及白金液　一、〇
一四七　乾藍　一、〇
一四八　水藍　一、〇
一四九　インヂゴー、エキストラクト及インヂゴー、カルマイン　一、〇
一五〇　鉛粉（各色）　一、〇
一五一　ログウード　一、〇
一五二　ログウード越幾斯　一、〇
一五三　栲皮　一、〇
一五四　色油　一、〇
一五五　紅花　一、〇
一五六　蘇木　一、〇
一五七　花紺青　一、〇
一五八　姜黃　一、〇
一五九　郡青　一、〇
一六〇　洋漆　一、〇
一六一　支那漆　一、〇
一六二　綠青　一、〇
一六三　朱　一、〇
一六四　碗青　一、〇
一六五　白色亞鉛粉　一、〇
一六六　其ノ他各種ノ染料、彩料及塗料　一、〇

第六類　玻璃及玻璃製品

一六七　龍玻璃片（尋常ノモノ）　一、〇
一六八　甲　無色及無著色ノモノ　一、五
一六九　乙　其ノ他各種　一、〇
一七〇　プレート玻璃片（水銀ヲ塗リタルト否トヲ別タス）　二、〇
一七一　玻璃珠（威尼斯珠ト稱スルモノ）　二、〇
一七二　層玻璃及粉玻璃　二、五
一七三　玻璃鏡　二、五
一七四　其ノ他各種ノ玻璃製品（別項ニ掲ケサルモノ）　二、〇

第七類　穀物及種子

一七五　大麥　五
一七六　豆類　五
一七七　玉蜀黍　五
一七八　燕麥　五
一七九　胡麻子　五
一八〇　小麥　五
一八一　其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ穀物及種子　五
一八二

第八類　角牙皮毛介甲類

一八三　獸骨　五
一八四　羽毛（各種）　二、五
一八五　毛皮（治理シタルト否トヲ別タス）　二、五
一八六　獸毛（羊毛、山羊毛及駱駝毛ヲ除ク）　五
一八七　髮毛　二、〇
一八八　牛皮及水牛皮（生、乾若クハ鹽漬等ノ治理ヲ經サルモノ）　五
一八九　鹿皮（生、乾若クハ鹽漬等ノ治理ヲ經サルモノ）　五
一九〇　山馬皮（生、乾若クハ鹽漬等ノ治理ヲ經サルモノ）　五
一九一　獸蹄　五
一九二　牛角及水牛角　五
一九三　鹿角　五
一九四　犀角　一、〇
一九五　象牙　一、〇
一九六　屑象牙　一、〇
一九七　一角牙　一、〇
一九八　海馬牙　一、〇

一九六	靴底皮	一、五
一九七	其ノ他各種ノ熟皮	一、五
一九八	鼈甲	一、五
一九九	屠鼈甲	一、五
二〇〇	其ノ他各種ノ骨角、生皮及介甲	一、五
二〇一	其ノ他各種ノ牙類	一、〇
	第九類　金屬及金屬製品	
二〇二	安知母尼（塊錠ヲ別タス）	五
	眞鍮	
	條、竿及板	一、〇
二〇三	筒及管	一、〇
二〇四	螺旋釘	一、〇
二〇五	故眞鍮（改造適用ノモノ）	一、〇
二〇六	銅	五
	塊及錠	
二〇七	條、竿及板	一、〇
二〇八	釘	一、〇
二〇九	筒及管	一、〇
二一〇	線	一、〇
二一一	銅貨及白銅貨	五
二一二	故銅（改造適用ノモノ）	五
二一三	日耳曼銀（板、竿及線）	一、〇
二一四	鐵及軟鋼	五
	塊	五
二一五	槍鐵及艙鋼	五
二一六	條、竿、箍及帶	一、〇
二一七	テイ形、アングル形其ノ他類似ノ熟鐵及軟鋼	一、〇
二一八	軌條及附屬ノ牝牡螺旋釘チエルス、ドグスパイキス、フヒシプレーツ	一、〇
二一九	板（波形ト否トヲ別タス）	一、〇
	電鍍板（波形ト否トヲ別タス）	一、〇
二二〇	有紋板	一、〇
二二一	筒及管	一、〇
二二二	釘（電鍍シタルト否トヲ別タス別項ニ揭ケサルモノ）	一、〇
二二三	螺旋釘及牝牡螺旋釘（別項ニ揭ケサルモノ）	一、〇
二二四	葉鐵、葉鋼（無地若クハ晶鍍ノモノ）	一、〇
二二五	線及徑一因ノ四分一ヲ超エサル細竿（錫鍍シタルト否トヲ別タス）	一、〇
二二六	電線（電鍍線）	一、〇
二二七		
二二八		

二二九	線索（電鍍シタルト否トヲ別タス）	一、〇
二三〇	故線索（電鍍シタルト否トヲ別タス）	五
二三一	故鎖、故線其ノ他改造適用ノ故鐵及故軟鋼	五
	鉛	
二三二	塊及錠	五
二三三	板	一、〇
二三四	筒及管	一、〇
二三五	水銀	五
二三六	曜結爾	五
	白金	
二三七	塊	五
二三八	條、竿、板及線	一、〇
二三九	鐵（各種）鋼（軟鋼ニ非サルモノ）	五
二四〇	塊	五
二四一	條、竿及板	一、〇
二四二	筒及管	一、〇
二四三	線及徑一因ノ四分一ヲ超エサル細竿	一、〇
二四四	線（傘骨用ノモノ）	一、〇
二四五	線索（電鍍シタルト否トヲ別タス）	一、〇
二四六	故鐵其ノ他改造適用ノ故鋼	五
	錫	
二四七	塊及錠	五
二四八	板	一、〇
二四九	白鑞（パビツツ）	五
	黃銅	
二五〇	板	一、〇
二五一	條及竿	一、〇
二五二	釘	一、〇
二五三	筒及管	一、〇
二五四	故黃銅（改造適用ノモノ）	五
	亞鉛	
二五五	塊及錠	五
二五六	板	一、〇
二五七	故板及其ノ他改造適用ノ故亞鉛	五
二五八	別項ニ揭ケサル釘及螺旋釘	一、〇
二五九	錨及錨鏈（新故ヲ別タス）	一、〇
二六〇	提灘用金具	一、〇
二六一	キヤプシユール（罎ノ口ニ用ヰル金具）	一、五
二六二	鐵鏈（別項ニ揭ケサルモノ）	一、五

二六三	戸鎖、戸鈕、戸栓、蝶鉸類	一、五
二六四	金銀其ノ他金屬箔及粉	一、五
二六五	金銀器（別項ニ揭ケサルモノ）	三、五
二六六	鍍金銀器（別項ニ揭ケサルモノ）	二、五
二六七	壁爐、置爐及附屬品	二、〇
二六八	貨幣匣	二、〇
二六九	傘骨及附屬金具	一、五
二七〇	其ノ他別項ニ揭ケサル各種ノ金屬	五
二七一	其ノ他別項ニ揭ケサル各種ノ金屬製品	二、〇
	第十類　油蠟	
二七二	蠟燭	一、五
二七三	氣油	一、〇
二七四	豆油	一、〇
二七五	琵麻子油	一、〇
二七六	椰子油	一、〇
二七七	落花生豆油	一、〇
二七八	石油	一、〇
二七九	亞麻子油	一、〇
二八〇	阿列布油	一、〇
二八一	櫻欄子油	一、〇
二八二	無味香油	一、〇
二八三	松精油	一、〇
二八四	蟲白蠟（蜡）	一、〇
二八五	無味香蠟	一、〇
二八六	其ノ他各種ノ油蠟	一、〇
	第十一類　紙及文具	
二八七	集畫帖（寫眞用及郵便切符貼用ノモノ）	二、五
二八八	白紙帳簿及書式類	一、五
二八九	墨汁（印刷用、寫字用、筆記用及石版用ノモノ）	
二九〇	唐紙類（各種）	一、五
二九一	壁紙	一、五
二九二	印刷料紙	一、五
二九三	其ノ他各種ノ紙類	一、五
二九四	鉛筆	
	甲　金製及白金製ノモノ	三、〇
	乙　其ノ他各種	一、五
二九五	筆嘴	
	甲　金製ノモノ	三、〇
	乙　其ノ他各種	一、五
二九六	封蠟	一、五
二九七	藁紙	一、五

二九八	其ノ他各種ノ文具	一、五
	第十二類　砂糖	
二九九	砂糖	五
三〇〇	精糖	二、〇
三〇一	氷砂糖	二、五
三〇二	糖蜜	一、〇
三〇三	糖水	一、〇
	第十三類　布帛、絲綿及同材料	
	第一	
三〇四	綿織絲	一、〇
三〇五	綿縫絲	一、五
三〇六	製本用綿布	一、五
三〇七	綿純子	一、五
三〇八	雲齋布	一、五
三〇九	綿帆布	一、五
三一〇	更紗類	一、五
三一一	綿繻子、綿ブロケード　綿イタリアンス及紋金巾	一、五
三一二	綿天鵞絨	一、五
三一三	ギンハム	一、五
三一四	生金巾	一、五
三一五	晒金巾	一、五
三一六	綾金巾	一、五
三一七	色金巾	一、五
三一八	唐機	一、五
三一九	天竺布（小幅金巾）	一、五
三二〇	緋金巾	一、五
三二一	寒冷紗	一、五
三二二	其ノ他各種ノ綿布（純綿ト他物ヲ交ヘタルトヲ別タス但シ綿ノ重量超過スルモノ）	一、五
	第二	
三二三	毛絲及ウルステッド絲（各種）	一、〇
三二四	アルパカ	一、五
三二五	絹吳呂	一、五
三二六	旗布	一、五
三二七	吳呂、綾吳呂及畔吳呂	一、五
三二八	カムレット、コールド紋吳呂	一、五
三二九	フランネル（毛製及毛綿製ノモノ）	一、五
三三〇	イタリアン、クローツ	一、五
三三一	羅世伊多	一、五
三三二	縮緬吳呂（毛製及毛綿製ノモノ）	一、五
三三三		

ヲルリアンス及ラストルス	三三四	一、五
セルヂス	三三五	一、五
スパニシ、ストライプス	三三六	一、五
羅紗(各種)	三三七	一、五
毛絨子	三三八	一、五
毛フエルト地	三三九	一、五
其ノ他各種ノ毛布(純毛ト他物ヲ交ヘタルトヲ別タス但シ毛ノ重量超過スルモノ)	三四〇	一、五
第三		
生絲、撚絲、玉絲、熨斗絲、層絲及野蠶絲	三四一	一、五
眞綿	三四二	一、五
絹織絲(紡績シタル)及絹交織絲	三四三	一、五
絹絲類(別項ニ揭ケサルモノ)	三四四	二、〇
支那縮緬	三四五	二、〇
支那絹紬	三四六	二、〇
支那絹紋繻子	三四七	二、〇
絹綿繻子	三四八	二、〇
刺繍絹布及刺繍絹縮布	三四九	二、〇
其ノ他各種ノ絹布(純絹ト他物ヲ交ヘタルトヲ別タス但シ絹ノ重量超過スルモノ)	三五〇	二、五
第四	三五一	二、〇
麻織絲	三五二	一、〇
麻縫絲	三五三	一、五
麻帆布	三五四	一、五
麻布(生、晒、染色若ハ形付ノモノ)	三五五	一、五
麻純子	三五六	一、五
其ノ他各種ノ麻布(純麻ト他物ヲ交ヘタルトヲ別タス但シ麻ノ重量超過スルモノ)	三五七	一、五
第五		
ブランケット(單製連製ヲ別タス各種)	三五八	一、五
ブラッセルス氈	三五九	二、〇
フエルト氈	三六〇	二、〇
麻氈	三六一	二、〇
パテント、タペストリー氈	三六二	二、〇
其ノ他各種ノ地氈	三六三	二、〇
竹布	三六四	一、五
繻帷	三六五	二、五
甲　絹製及絹入ノモノ		
乙　其ノ他各種	三六六	二、〇
軌護謨布		
甲　絹入ノモノ		
乙　其ノ他各種	三六七	一、五
護謨紐類	三六八	一、五
手巾		
甲　綿製、麻製及麻綿製ノ(單製連製ヲ別タス)	三六九	一、五
乙　絹製及レース製ノモノ	三七〇	二、〇
蚊帳(各種)	三七一	一、五
革布(家具等ニ用ヰルモノ)		
油布及リノリユム(牀ニ用ヰルモノ)	三七二	一、五
檯衣		
甲　絹製及絹入ノモノ	三七三	二、五
乙　其ノ他各種	三七四	二、〇
浴巾(單製連製ヲ別タス各種)		
旅氈(單製連製ヲ別タス)	三七五	一、五
甲　絹入ノモノ	三七六	二、五
乙　其ノ他各種	三七七	一、五
綿線及苧麻線	三七八	一、〇
織絲及縫絲(別項ニ揭ケサル各種)		
其ノ他各種ノ布帛		
其ノ他各種ノ布帛製品		
甲　絹製及絹入ノモノ		
乙　其ノ他各種		
第十四類　煙草		
卷煙草及小卷煙草	三七九	四、〇
紙卷煙草	三八〇	四、〇
嗅煙草	三八一	四、〇
刻煙草	三八二	四、〇
葉煙草	三八三	三、五
其ノ他諸製煙草	三八四	四、〇
第十五類　酒類		
麥酒及黑麥酒	三八五	二、五
ブランデー	三八六	四、〇
シヤムパン	三八七	三、五
支那酒(各種)	三八八	四、〇
杜松子酒	三八九	四、〇
リキユール(各種)	三九〇	四、〇
ポルト	三九一	三、五
ラム	三九二	四、〇
清酒(內地釀造類似ノモノ)	三九三	四、〇
シエリー	三九四	三、五
ウヰルモット	三九五	二、五
ウヰスキー	三九六	四、〇
葡萄酒(赤白ヲ別タス)	三九七	三、五
其ノ他各種ノ蒸溜酒	三九八	四、〇
其ノ他各種ノ釀造酒	三九九	三、五
第十六類　雜品		
沈香	四〇〇	一、〇
琥珀	四〇一	二、〇
甲　加工セサルモノ		
乙　加工シタルモノ		
動物	四〇二	一、〇
牛、馬、驢、騾、綿羊、山羊及雜其ノ他各種ノ動物	四〇三	五
石絨(板)	四〇四	一、〇
竹材(工ヲ加ヘサルモノ)	四〇五	一、〇
革帶、護謨帶、帆布帶、護謨管及帆布管(機械ニ用ヰルモノ)	四〇六	五
衝球臺及附屬品	四〇七	一、〇
ブラスチング、ゼラチン其ノ他類似ノ爆發藥、デトネートル及フユーズ	四〇八	三、〇
磚瓦(建築用ノモノ)	四〇九	一、五
ブラシ及彗(各種)	四一〇	一、〇
杖及鞭	四一一	二、〇
護謨及個答百兒沙	四一二	二、〇
甲　生		
乙　板		
丙　工ヲ加ヘタルモノ(別項ニ揭ケサルモノ)		
乘車、自轉車及同部分品	四一三	一、五
鐵道客車及同部分品	四一四	一、〇
鐵道貨車及同部分品	四一五	一、〇
鐵道馬車及同部分品	四一六	一、〇
貨車	四一七	一、〇
セリユロイド	四一八	一、〇
甲　板若クハ竿		
乙　工ヲ加ヘタルモノ		
ポルトランド、セメント	四一九	二、〇
白堊及ホワイチング	四二〇	二、五
木炭及骨炭	四二一	一、〇
粘土(各種)	四二二	五
石炭及磚炭	四二三	
焦炭	四二四	
珊瑚(加工シタルト否トヲ別タス)	四二五	
苧麻繩索(船用ト否トヲ別タス)	四二六	三、〇
塞子樹皮	四二七	一、〇
塞子	四二八	五
玻璃刀	四二九	一、〇
ダイナマイト	四三〇	三、五
金剛砂	四三一	
金剛砂布及砂紙	四三二	
金剛砂砥其ノ他各種ノ砥石	四三三	
フエルト(船底用若クハ屋背用ノモノ)	四三四	
煙火(各種)	四三五	一、〇
天鵞絨(漁用ノモノ)	四三六	三、〇
燧石	四三七	五
造花	四三八	五
額縁及天井縁	四三九	二、五
海羅	四四〇	二、〇
家具(新故ヲ別タス別項ニ揭ケサルモノ)	四四一	五
テンニス、クリツケット、象棋其ノ他ノ遊戲具(別項ニ揭ケサルモノ)	四四二	二、〇
阿膠(普通)	四四三	二、五
綿火藥	四四四	一、五
火藥(各種)	四四五	一、五
石膏	四四六	五
飼草	四四七	五
象牙製品(別項ニ揭ケサルモノ)	四四八	二、〇
金銀細貨類(貴石眞珠等ヲ嵌メタルト否トヲ別タス)	四四九	三、五
假製金銀細貨類(貴石眞珠等ヲ嵌メタルト否トヲ別タス)	四五〇	三、〇
貼札(罐等ニ用ヰルモノ)	四五一	一、五
ラムプ、提燈及同部分品	四五二	二、〇
獸脂類	四五三	一、〇
皮革製品(別項ニ揭ケサルモノ)	四五四	一、〇
麥芽	四五五	二、〇
マッチ(各種)	四五六	五
支那蓆(一卷四十碼)	四五七	二、〇
椰皮蓆	四五八	二、〇
其ノ他各種ノ地蓆	四五九	二、〇
マイカ(板)	四六〇	一、〇
ラークム(船苔)	四六一	五
パッキング(汽機用ノモノ)	四六二	一、〇
油畫、水畫、石版畫、著色石版畫、寫眞畫、法帖其ノ他別項ニ揭ケサル各種ノ書畫類)	四六三	二、五
瀝青、木炭兒及石炭炭兒	四六四	五
巴黎灰	四六五	五

四六六　骨牌（各種）　三、五
四六七　石墨　五
四六八　磁器及陶器（別項ニ揭ケサルモノ）
四六九　貴石及眞珠　二、〇
四七〇　貴石及眞珠（假製ノモノ）　三、五
四七一　ポルプ（製紙料ノモノ）　三、〇
四七二　パッテ非ー　五
四七三　籐（割キタルト否トヲ別タス）　五
四七四　馬具　二、五
四七五　白檀　一、〇
四七六　靴墨（各種）　二、〇
四七七　吸煙器具（阿片吸煙具ヲ除ク）　三、〇
四七八　石鹼
甲　化粧用ノモノ　二、〇
乙　其ノ他各種　一、〇
四七九　滑石（塊粉ヲ別タス）　五
四八〇　スパルテリー（製帽用ノモノ）　一、〇
四八一　海綿　五
四八二　石類（別項ニ揭ケサルモノ）
甲　建築用其ノ他工作ヲ經サルモノ　五
乙　裝飾用若クハ家具用其ノ他工作ヲ經タルモノ　二、〇
丙　肖像其ノ他彫刻シタルモノ　二、五
四八三　海底電線及地下電線　一、〇
四八四　紫檀　五
四八五　チーキ材　五
四八六　木材及板（別項ニ揭ケサル各種）　五
四八七　化粧具匣　二、五
四八八　香水、香油、洗齒藥其ノ他各種ノ脂粉及薰香類　三、〇
四八九　鼈甲製品　二、五
四九〇　甎具（各種）　二、〇
四九一　旅櫃、提囊及佩袋　二、〇
四九二　傘類
甲　絹及絹入ノモノ　二、五
乙　其ノ他各種　二、〇
四九三　傘柄及傘手（金銀製ヲ除ク）　二、〇
四九四　汽船、帆船及舟艇　五
四九五　紫檀器及黑檀器　二、五
四九六　其ノ他稅目中ニ揭ケサル生粗若クハ未製品　一、〇
四九七　其ノ他稅目中ニ揭ケサル全製若クハ半製品　二、〇
四九八　廣告ノ書畫及看板　五〇二
四九九　地圖、海圖及其ノ他學術圖　五〇三
五〇〇　銀行券、利札、株券其ノ他各種ノ有價證券　五〇四
五〇一　書籍、習字本、習畫本及新聞雜誌　五〇五
五〇二　金銀（地金）　五〇六
五〇三　繭（各種）　五〇七
五〇四　金銀貨幣　五〇八
五〇五　故綿　五〇九
五〇六　綫綿　五一〇
五〇七　生綿　五一一
五〇八　屑綿　五一二
五〇九　屑綿絲　五一三
五一〇　苧麻（統理シタルト否トヲ別タス）　五一四
五一一　鳥糞　五一五
五一二　ゴンニー靂（新故ヲ別タス）　五一六
五一三　ゴンニー布　五一七
五一四　包帶　五一八
五一五　雛形及工事圖面　五一九
五一六　油糟（塊粉ヲ別タス）　五二〇
五一七　藥料阿片（政府ノ輸入スルモノ）　五二一
五一八　草木及苗根　五二二
五一九　米、粟　五二三
五二〇　乾鰯　五二四
五二一　茶籃、茶飾及茶箕　五二五
五二二　茶鍋
五二三　茶鉛
五二四　羊毛、山羊毛及駱駝毛（新故ヲ別タス）
五二五
第三種　禁制品
五二六　法律命令ニ依リ有害ナリト認ムヘキ純良ナラサル藥材、化學藥、製藥、食物若クハ飲料
五二七　阿片吸煙具
五二八　法律命令ニ依リ公共ノ衛生又ハ動植物ニ危險ナリト認ムヘキ物品
五二九　特許意匠商標及版權ニ關スル帝國ノ法律ニ違反シタル物品
五三〇　贋造貨幣及贋造ト認ムヘキ模造貨幣
五三一　阿片（政府ノ輸入スル藥料阿片ヲ除ク）
五三二　公安及風俗ヲ害スヘキ書籍、圖畫、彫刻物其ノ他ノ物品

（國務大臣伯爵松方正義君演壇ニ登ル）

○國務大臣（伯爵松方正義君）　唯今議題ニ上ボリマシタ關稅定率法案ハ實ニ經濟上ニ至大ナル關係ヲ有シマスル譯デゴザイマシテ此頁否、善シ惡シニ據リマシテハ國ノ工業上ニモ生產上ニモ大關係ヲ有シマスルコトハ申スマデモナイコトデゴザイマス、ソレ故ニ此調査ヲ致シマスルニモ最モ愼重ヲ加ヘマシテ今日ノ情勢ニ照シ外國貿易ノ形況ニモ考ヘマシテ國ノ隆盛ヲ傷ツケヌヤウニ調査ヲ致シマシダデゴザイマス、其編成ノ要旨ニ於キマシテハ奢侈品ハ最モ高稅ニ致シマシタ、ソレカラ原料品ハ低稅若クハ無稅ト致シマシタ、大體平均致シマスルト高イ所ガ四割位、低イ所ハ五分位ナル故凡ソ一割五厘位ニナリマス、要シマスルニ今日ニ於キマシテ本邦ノ進運ニ適應スルヤウニ方針ヲ執リマシテ制定致シマシタ、一ハ歲入ノ增シマスルヤウニ、一ハ殖產興業ノ上ニ妨ニナラヌヤウニ注意ヲ致シマシテ取調ヲ致シマシタデゴザイマス、然ルニ此法案ハ改正條約實施以前ニ發布シテ居ラニヤアナラナイ稅法ノコトデモゴザイマスシ、是マデハ諸君ガ御承知ノ通日本ハ國定稅率法ハ全クナイ譯ニナッテ居リマシタカラ是非條約改正實施前ニハ發布ニナッテ居マシテ、サウシテ是ガ一番先キニ實施ニナル箇條デゴザイマスカラ、成ルタケ大部ノコトデゴザイマスケレドモ速ニ審査ヲ遂ゲラレマシテ御協贊ヲ得マスルコトヲ希望致シマス

○宮本小一君　總理大臣ニ甚ダ御面倒デゴザイマスガ一言伺ヒマスガ、唯今御演說ノゴザイマシタ通條約改正ニ基キマシテ改正實施ノ時カラ御實施ニナリマスモノト見エマスルガ、誠ニ結構ナ……新ニ立チマスルコトデ是レホド目出タイコトハナイ、實ニ本員ナドハ喜バシイコトニ存ジマス、ソレニ附キマシテハ定メシ稅率ハ十分ニ御吟味モゴザイマシテ御定メニナッタノデゴザイマセウ、然ル所衆議院ノ方デゴザイマスガ、マダ碌々見マセヌタメニ分リマセヌガ二割トアルヲ三割トシタリ一割五分トアルヲ二割五分トシタリ致シテ高メテゴザイマス、此高メタ方ハ存ジ寄リハゴザイマセヌガ何シロ是ハ餘程輸入ノ統計上ニ影響ヲ及シマスルコトデモアリ申サバサウ是ガ無闇ニ稅率ヲ高メタカラソレデ貿易ガ盛ンニナリ海關ノ收入ガ殖エルト云フ譯ニモ參ラヌヤウニ存ジマス、ソレ故ニ高クハ申サレマセヌコトデゴザイマスガ各國トノ國際上ニ於テ若シヤ遽ニ高クナリマシテハ如何ナモノデゴザイマセウカ、政府ノ御都合ハドウデアラウカ杞憂致シマスガ、其邊ハ更ニ頓著ナク衆議院ノ通リニナッテ御差支ナイコトデゴザイマスカ、一應伺ヒタウゴザイマス

（國務大臣伯爵松方正義君演壇ニ登ル）

○國務大臣（伯爵松方正義君）　唯今ノ御質問ハ少シ要旨ヲバ伺ヒ兼ネマシタガ今一應要旨ダケヲ……

○宮本小一君　簡單ニ申シマスレバ誠ニ結構ナコトデゴザイマスガ、サリナガラ此原案ニ定メシ十分ニ御吟味デ稅率ガ定マッタコトヽ思ヒマス、ソレヲ衆議院ガ殖シマシタガ、殖シマシタニ存ジ寄リハゴザイマセヌ、……申兼ネマスガ申サバ無闇ニ稅率ヲ殖シタノハ御差支ハナイモノデゴザイマスカ

○國務大臣（伯爵松方正義君）　分リマシタ、御尤ナ御質問デゴザイマスルガ此制定方ニ附キマシテハ中ヽ入組ミマシタコトデゴザイマスカラ、一年二年ノコトデモゴザイマセズ最早三四年モ掛リマシテ十分鄭重ニ調査ヲ致シマシタ譯デゴザイマス、然ルニ衆議院ニ於キマシテ僅ナ修正ガゴザイマシタ、ソレ

ハ修正ニナリマシテモ貿易上ニ差支ハナイト見認メマシタカラソレデ承諾ヲ致シマシテゴザイマス、ソレデ宜シウゴザイマスカ

○宮本小一君　分リマシタ、ソレナラバ

○議長（公爵近衞篤麿君）　外ニ御質問ガナクバ特別委員ノ選定ニ移リマス

○男爵小澤武雄君　此特別委員ハ議長ニ選定ヲ請ヒマス

○子爵小笠原壽長君　賛成

〔「賛成」ト呼フ者數名アリ〕

○議長（公爵近衞篤麿君）　議長依託ト云フニ御異議ガナクバ……

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

次ハ日程ニ戻リマシテ國稅徵收法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是モ通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

（阪本書記官朗讀）

國稅徵收法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十年三月十七日　衆議院議長鳩山和夫

貴族院議長公爵近衞篤麿殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

國稅徵收法

第一章　總則

第一條　國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條　國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條　納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條　納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ强制執行若ハ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ

納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス

第二章　徵收

第五條　市町村ハ其ノ市町村內ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條　國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條　納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲メ時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條　市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第三章　滯納處分

第九條　國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料ヲ徵收ス

第十條　滯納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限內ニ督促手數料及稅金ヲ完納セサルトキハ其ノ財產ヲ差押フヘシ

第十一條　收稅官吏滯納處分ノ爲メ財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條　差押フヘキ財產ノ價格ニシテ滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條　收稅官吏滯納者ノ財產ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條　收稅官吏財產ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財產ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條　滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財產ノ差押ヲ免ルル爲メ故意ニ其ノ財產ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　左ニ揭クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

一　滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

二　滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭

三　實印其ノ他職業ニ必要ナル印

四　祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地

五　系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六　職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七　勳章其ノ他名譽ノ章票

八　滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九　發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條　左ニ揭クル物件ハ他ニ滯納處分費及稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

一　農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其ノ飼料

二　職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條　差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條　滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十條　收税官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收税官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日沒マテニ限ル

第二十一條　收税官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ揭ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員（市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員）若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條　通貨、地金銀、有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收税官吏之ヲ封印シテ其ノ地ノ市町村長（市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長ニ）保管セシムヘシ

前項ニ揭ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收税官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但シ不動産又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其ノ保管ヲ滯納者又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第二十三條　債權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收税官吏ニ對シテ滯納處分費及税金額ヲ限トシ自己ノ債務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滯納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無効トス

第二十四條　差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條　見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條　滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ税務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條　滯納處分費ハ督促手數料、財産ノ差押、保管、運搬及公賣ニ關スル費用、通信費及訴訟費用トス

滯納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ徴收ス

滯納處分費ハ國税及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條　差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及税金ニ充テ仍殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ但シ第三條ニ揭ケタル質入書入ノ物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ滯納處分費ヲ徴シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツルマテヲ債主ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

第二十九條　會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條　滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達スルモノトス

名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條　直接國税滯納者ノ納税義務ハ滯納處分ノ結了ヲ以テ終ル滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

間接國税ニ付テハ滯納處分結了スルモ滯納處分費及税金ノ完納ニ至ラサルトキハ納期限後一箇年間ハ隨時其ノ不足額ヲ徴收ス滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章　罰則

第三十二條　滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脫漏シ又ハ虚僞ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脫漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幇助シ又ハ虚僞ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章　附則

第三十三條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條　明治二十二年法律第九號國税徴收法、同年法律第三十二號國税滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

（政府委員目賀田種太郎君演壇ニ登ル）

○政府委員（目賀田種太郎君）　現行ノ國税徴收法及國税滯納處分法ノ二ツデゴザイマスルガ、一ハ國税ノ納期ニ於ケル任意ノ徴收ヲ規定シ一ハ國税ノ納期ニ於ケル不任意ノ徴收ノ場合ヲ規定シタモノデ、此兩法ハ數年前ノ制定ニ係リマシテ且ツ別々ニ成立ッテ居リマスルガ故ニ右ノ如ク兩者等シク國税ノ徴收ニハ係リマスルケレドモ其執行上ニ於テ自カラ不便ノ點モ少カラヌコトデ殊ニ該法ノ制定以來今日ハ民法モ發布セラレ又民事訴訟法モ今日ハ施行ニナッテ居リマシテ其共ニ行レテ居リマスル上ニ附イテ彼是不便ナリト云フノ點ヲ例ヘテ擧ゲマスレバ國税滯納處分法ニ依リマスレバ戸主ガ不納ヲ爲シタ場合ニ其家族ノ財産ハ一年前ニ官簿ニ登載シ若クハ記名ニナッテ居ラヌケレバ之ヲ等ク差押ヘルト云フヤウナ規程ニナッテ居リマス、是等ハ今日ノ他ノ

法律ノ精神ニモ稍〻適ハザルモノデゴザイマシテ宜ク改正ヲ要スルコト、認メマス、又其他國稅徵收法ノ期滿效ハ會計法ナドトハ異ッテ居リマシテ是等モ等ク債務ニ關スル法律デアッテ同一デアルベキコトナリト考ヘマスル、是等ノ點モゴザイマスルシ旁〻此徵稅ノコトニ附キマシテ成ルベク官民ノ間ノ煩雜ナル手數ヲ避ケテ事ヲ敏捷ニ致シタイト云フノ目的ヲ以テ本案ノ提出ヲ必要ト認メタ次第デゴザイマスル、願クハ御協贊ヲ全タウセンコトヲ望ミマス

○名村泰藏君　チョット質問ヲ致シマス、今度ノ十六條デゴザイマス、十六條ノ中ニ列記シテアリマスル事柄ノ舊法デハ第十ト云フモノガ……現行法ノ第十、是ガ削ラレテ居リマスルガドウ云フ趣意デ削ラレマシタカ

○議長（公爵近衞篤麿君）　名村君ニチョット御注意シマスガ箇條ニ附イテノ御質問ハ二讀會ニ移ッテカラノ方ガ宜クハアリマセヌカト思ヒマス

○名村泰藏君　ソレデハ左樣致シマス

○男爵小松行正君　衆議院デ修正ニナリマシタ第四條ノ但書ハ政府ニ於テハ御同意デゴザイマスカ

○政府委員（目賀田種太郎君）　右ノ修正ハ至極適當ナル修正ナリト認メマシテ同意致シテ居リマス

○議長（公爵近衞篤麿君）　大體ニ附イテノ御質問ガナクバ、次ノ日程ニ移リマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧

○子爵小笠原壽長君　此委員ノ選定ハ議長ニ委託致シマス

（「贊成」ト呼フ者アリ）

議長委託ニ御異議ガナクバサウ致シマス

○箕作麟祥君　唯今議事日程ガ濟ミマシタガ其間ニ一ツ緊急動議ヲ發シマシテ海上衝突豫防法中改正法律案、是ハ特別委員カラ原案ノ通可トスルト云フ報告ヲ致シタ次第デアリマスルガ、此案ハ諸君モ定メシ御承知デゴザンセウガ七月一日カラ施行シナケレバナラヌ譯ニナッテ居リマス、其ナラヌト云フノハ是バ其日本內國バカリデハゴザイマセヌ、詰リ各國トノ合意上カラ出來タヤウナモノデアリマシテ我邦バカリ先キヘ延バスト云フ譯ニハドウモ參リ兼ネル譯デアリマスカラ餘程是ハ至急ヲ要スルモノデアッテ是非此會期中ニ上下兩院ヲ通過シナケレバナラヌト云フコトデアリマスカラドウカ議事日程ヲ變更セラレマシテ此海上衝突豫防法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開カレテ特別委員長ノ報告ヲ致シタク考ヘマス

（「贊成」ト呼フ者アリ）

○議長（公爵近衞篤麿君）　唯今議事日程變更ノ動議ガ出マシタガ御異議ガナクバ……

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

然ラバ海上衝突豫防法中改正法律案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

（箕作麟祥君演壇ニ登ル）

○箕作麟祥君　此海上衝突豫防法中改正法律案ハ誠ニ僅ノ改正デアリマスルガ唯今現行ノ海上衝突豫防法ハ卽チ明治十五年ニ貴衆兩院ノ協贊ヲ經テ制定セラレタモノデアリマス、然ル所ガ其後航海ヲ盛ニ致スル各國ニ於キマシテ段々此儘デハ不都合ダト云フコトヲ發見致シマシテ研究ノ末遂ニ此英吉利亞米利加兩國ニ於テ此度ノ改正案ノ如ク修正ヲ加ヘヌケレバ海上衝突ノ豫防ノ效ガ完全デナイト云フコトヲ決定致シマシテ、而シテ是ハ本年ノ七月一日ヨリ實施スルト云フコトヲ此兩國ガ取極メマシタ次第デアリマス、ソレニ歐羅巴ノ中ノ重ナル國、卽チ獨逸、佛蘭西、伊太利、露西亞、西班牙、瑞典、和蘭、丁抹、希臘、澳太利、匈牙利、ナドト申スヤウナ大國ガ皆同意ヲ表シタ次第デゴザイマス、御承知ノ通此海上衝突豫防法ハ卽チ多クハ大海ニ於キマシテ船ト船トノ衝突スルノヲ防グ法デアリマスルカラ致シテドウモ本邦ノミ外ノ國ニ關係ナシニ獨立ノ豫防法ヲ作リマシテモ其詮ガナイコトデアリマス、從ヒマシテ右述ベマシタ通航海ヲ盛ニ致スル所ノ各國ガ議定シテ本年ノ七月ヨリ施行スルト云フ所ノ修正ニ本邦モ矢張同意ヲ表シマセヌケレバ折角ノ法律ノ效力モナイデアリマスルカラ卽チ此度ノ改正ハ已ムヲ得ザル次第デアリマスル詰リ申セバ此度ノ修正ハ英吉利、亞米利加デ作リマシテ其英文ノ原本ガアルノデ其原文ヲ云ハヾ翻譯シタヤウナモノデアリマスル、而シテ其翻譯ガ或ハ誤ッテ居ルカト云フ御懸念モアルカモ知レマセヌガ是ハ當局者ニ段々承リマシタガ此翻譯ノ誤ハナイヤウニシテアル、保證シテ宜シイト云フコトヲ明言セラレタ次第デアリマスカラ委員ニ於キマシテハ此政府委員ノ明言ヲ信ジ且ツ實ニ此改正ハ萬國普通ノコトデ已ムヲ得ザルモノト認メマシテ一字一點ノ修正ナク原案ヲ可ト決シタ次第デアリマスル、就キマシテハ議場ニ於キマシテモ諸君ノ御贊成ヲ得タク希望致シマス次第デアリマス、是ニ登リマシタ序ニ申シテ置キマスガ唯今ノ通簡單ナ修正デモアリマスシ且ツ又ドウモ是ハ已ムヲ得ナイ修正ト考ヘマス、且ツ七月一日カラ施行シナケレバナラヌト云フモノデアリマスカラ議事日程ヲ變更シタ通ノ次第デモアリマスルデ願クハ讀會省略ヲ以チマシテ直ニ可決アランコトヲ希望スル次第デアリマスルカラ讀會省略ノコト序ナガラ陳述致シテ置キマス

○小原重哉君　贊成

○子爵小笠原壽長君　贊成

○男爵西五辻文仲君　贊成

○南鄕茂光君　贊成

○山田卓介君　贊成

○子爵內藤政共君　贊成

○子爵本莊壽亘君　贊成

○根岸武香君　贊成

○子爵日野西光善君　贊成

○議長（公爵近衞篤麿君）　讀會省略ノ發議ガ成立チマシタ御異議ガナクバ讀會省略ニ致シマス

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

次ニ本條ハ可決シタモノト認メテ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

然ラバ本案ハ確定シマシタ

○男爵千家尊福君　此際ニ於テ議事日程ヲ變更セラレテ傳染病豫防法案ノ一讀會ノ續ヲ開クヤウニシタイト思フ、此傳染病豫防法案ハ卽チ四月一日ヨリ施行シタイト云フ政府ノ考デアッテ最モ急ヲ要スルコト、存ジマス、願クハ滿場ノ御贊成ヲ得テ議事日程ヲ變更シテ直ニ第一讀會ノ續ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○男爵西五辻文仲君　贊成

○小原重哉君　贊成

○子爵伏原宣足君　贊成

○議長（公爵近衞篤麿君）　議事日程變更ノ動議ガ出マシタガ御異議ガナクバ

左樣致シマス

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

然ラバ傳染病豫防法案第一讀會ノ續ニ移リマス、特別委員長報告

（男爵千家尊福君演壇ニ登ル）

○男爵千家尊福君　傳染病豫防法案ノ特別委員會ノ經過及修正ノ模樣ヲ御報告ヲ致シマス、本案ニ就キマシテハ三回ノ委員會ヲ開キマシテ諸君ノ御手許ニ回ハシテアル所ノ朱書ノ通卽チ修正ヲ加ヘマシタ次第デアリマス、第二條ニ於テ地方長官ノ下ニ「東京府ハ警視總監」トアル字ヲ削リマシタ次第ハ此東京府ニ於テ豫防檢疫等ノコトニ附イテハ東京府知事ノ管理スベキコト、警視總監ノ管理ニ係ルコトガ色々ニ涉ッテ居ルコトデアリマシテ却ッテ此法案中ニ斯ノ如ク記載スルヨリハソレハ施行命令ノ上ニ於テ明細ニ規定ニナル方ガ適當デアラウ又事實ノ上ニ於テ尤モ差支ナク行レルコトデアラウト云フ譯デ卽チ「東京府ハ警視總監」ト云フコトヲ削リマシタ次第デアル、是ニ依ッテ尙ホ次ノ條項ニアル所ノ分モ同樣ニ刪ッテアルヤウナコトデゴザイマス、サウ御承知ヲ願ヒタイ、ソレカラ第四條ニ於キマシテ第二項ニ社寺船舶等ノ字ヲ加ヘマシタ是ハ社寺ト云フノガナクテハ事實ニ於テ差支ルデアラウ又船舶ト云フノモ必要ナコトデアッテ之ヲ加ヘテ置クノガ相當デアラウト云フノデ加ヘタ次第デアル、隨分此河川ノ沿岸ノ所ニアッテハ往々傳染病ガ船舶中ヨリ起ルト云フコトハアル次第デアリマスカラソレ故ニ此文字ヲ加ヘテ置イタヤウナコトデアル、ソレカラ下ヘ參リマシテ「集會所興行場等」ト云フ「等」ノ字ヲ削リマシテ「其他ノ集會ノ場所ニ在リテハ其首長管理人又ハ代理者トス」ト云フ此「其他集會ノ場所」ト云フコトモ加ヘテ置カナケレバ或ハ玆ニ列記シテアル外ニ事實必要ナコトガ生ゼヌトモ計リ難イコトデアリマスカラソレ故ニ「其他集會ノ場所」ト云フ文字ヲ加ヘタソレカラ「首長」ト云フ文字ヲ加ヘマシタノハ是ハ社寺其他船舶ニ於キマシテモ唯「管理人或ハ代理者トス」ト云フ中ニ包含シ難イヤウナモノモ生ズルデアラウカト思ヒマスカラソレ故ニ「首長」ト云フ文字ヲ加ヘテ總テニ附イテノコトヲ玆ニ包含サセルヤウニスルタメニ修正ヲ致シタ次第デアル、第七條總テ之ヲ削除致シマシタノハ是等ノ義務者ヲ玆デ規定致シマシタノハ別段ニ玆ニ揭ケズトモ總テ第四條ノ第二項ニ屆ケ出ヲ爲スベキ義務者ハ極ッテ居ル又其他ノ條項ニ於テモ其ノ義務者ノ規定ハアルノデアル、故ニ重複ニ屬スルデアラウト云フ意見ヲ以テ之ヲ削除致シタヤウナコトデアル、ソレカラ第十一條ニ至ッテ「傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ハ私ニ使用移轉遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス」ト斯ウ修正ヲシタ次第ハ「當該官吏ノ認可ヲ受クルニアラサレハ」ト申サズトモ私ニ使用移轉等ノコトガ出來ナイコトニ認メテ置イタレバソレデ十分デアラウト云フノデ斯ウ修正ヲ加ヘタ其使用ト云フコトヲ刪リマシタノハ使用ト特ニ明記シナクトモ移轉ト云フ點ニ總テヲ包含スルコトデアルカラ「使用」ト云フ二字ヲ刪除致シタヤウナコトデアル、第十二條ニ至リマシテ「此場合ニ於テハ其土葬シタル死體ハ三箇年ヲ經過スルニアラサレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス」ト云フ是ダケヲ刪リマシテ、更ニ二項ヲ起シテ朱書ノ通加ヘマシタ譯デアル、是ハ三箇年ヲ經過スルデナイト他ニ改葬スルコトガ出來ナイト云フコトニナリマシテハ事實ノ上ニ於テ大イナル差支ヲ生ズルコトガアラウ、或ハ鐵道ノ敷設ノタメニ改葬ヲ要スル場合モアラウシ、或ハ國防上ノ工事ノタメニ改葬ヲ要スル場合モアルデアラウカラ此事ハ削除ヲ致シテ第二項ヲ起シテ「傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ公共ノ工事ノ爲メ必要アル場合ニ於テ所轄警察署ノ許可ヲ經タルトキハ此限ニ在ラス」斯ウ修正ヲ致シテ置ケバ事實ノ上ニ於テ誠ニ都合宜イコトデアルト云フノデ此通修正ヲ致シタ次第デアル、ソレカラ修正ノ第十四ニ至ッテ「其ノ事由ヲ戶主又ハ管理人」トアル所ヘ其事由ヲ戶主「首長」ト云フ二字ヲ加ヘマシタノハ卽チ前ノ第四條ノ二項カラ關聯シテ玆ニ加ヘタ次第デアル、ソレカラ「家宅內」ト云フ所ヲ「家宅船舶其ノ他ノ場所」ト加ヘマシタノモ別ニ說明ヲ要シナクテモ御承知ニナル通第四條ノ二項カラノ關聯デ斯ノ如ク修正ヲ致シタ次第デアル、ソレカラ修正ノ第十五條ノ二項ニ「市町村長之ヲ任免ス」トアリマスガ是ハ任免トアルヨリハ「囑託ス」ト云フコトニ改メタ方ガ穩デ宜カラウト云フノデ囑託ト云フコトニ改メマシタ次第デアル、ソレカラ第十七條、是ハ消毒所ノコトガ玆ニ加ッテ居ルノガ事實ノ上ニ於テ相當ノコトデアル、故ニ卽チ「消毒所ヲ設置」スルト云フコトヲ加ヘマシテ而シテ「傳染病患者又ハ隔離者ノ收容ニ充ツヘシ」ト申シマスコトハ是ハ第七條ニ於テ旣ニ規定モアリマスカラ別ニ再ビ玆ニ書クノ必要ハナイト云フノデ是ダケハ刪リマシテ卽チ修正ノ通「市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院隔離病舍隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ」ト修正ヲ致シタ次第デアル、二項ニ至ッテモ隔離所ヘ「消毒所」ト云フコトヲ加ヘマシタ譯ハ卽チ此一項カラノ續キデアル故ニ斯ウ加ヘタ次第デアル、ソレカラ第二十一條、卽チ修正ノ第二十一條ノ六トアル所ニ參ッテ「交通遮斷ノ爲メ」ト云フ下ヘ「又ハ一時營業ヲ失ヒ」ト云フ文字ヲ加ヘテ修正ヲ致シタノデ、是ハ交通遮斷ノタメニ生活シ能ハザル者ノミナラズ或ハ營業上ノ關係カラシテ漁獵ヲ爲ス者ト云フヤウナ類ガ其漁獵場ヲ差止メラレタルタメニ營業ヲ一時失フヤウナ場合モ生ズルダラウト思ヒマシテソレ故ニ玆ニ「又ハ一時營業ヲ失ヒ」ト云フ字ヲ加ヘテ修正ヲ加ヘタ次第デアル、ソレカラ修正ノ二十六條ニ至リマシテ「此ノ法律若クハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ淸潔方法消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス」ト云フノハ是ハ別ニ意味合ガアッテ修正ヲ致シタノデハナイ、唯其事柄ヲ明ニスルタメニ斯樣ニ修正ヲ致シタ次第デアル、ソレカラ修正ノ二十七條ニ至リマシテ「市町村」ト云フ下ニ「其ノ他ノ公共團體」是ハ市町村ノ團體ノ外ニ或ハ水利組合トカ云フヤウナ團體モアル次第デアリマスカラソレ等ノ團體ノコトモ包含サセルタメニ斯ウ修正ヲ致シテ置イタ方ガ事實ノ上ニ於テ差支ナク思ハル、コトモアリマス故ニ修正ヲ加ヘタ次第デアル、其文ノ卽チ續キノ所ニ至ッテ「其ノ他ノ公共團體」ト云フコトヲ同ク修正シテ市町村ト云フ字ノ下ヘ挿入ヲ致シタノモ前報告スルヤウナ次第カラ起ッテ居ルノデ、ソレカラ修正ノ三十條ニ至リマシテ「別ニ罰則ヲ定ムル場合ノ外」ト云フ字ヲ刪リマシタ、是ハモウ別ニ御報告申ス程ノ意味合ノアル譯デハナイ、斯ノ如キコトヲ玆ニ明記シテナクトモ差支ノナイコトデアル故ニ是ハ先ヅ削ッテ置イタ方ガ宜カラウト云フノデ刪リマシタヤウナ次第デアル、ソレカラ報告濟ニナリマシタガ修正ノ第二十五條ニ「府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分ノ一ヲ補助スルモノトス」卽チ國庫ヨリ六分一ニ對スル補助ノアル原案ノ規定デアルノデ是ハ原案ノ規定ハ卽チ警察費ノ地方稅ニ對スル補助ノ比例ガ六分一デアル故ニソレニ據ッテ斯ノ如キ性質ニナッタ次第デアリマスケレドモ近來各府縣ノ府縣稅又ハ地方稅ト云フモノハ年々增加ヲ致シテ參ッテ經濟上甚ダ困難ノ傾キヲ爲シテ居ル折柄ノコトデアリマスカラ此法案ノ規定スル所ハ三分一ノ補助ヲ國庫ヨリ與フルコトニナルノガ當然ノコトデアッテ又此法律施行ノ上ニ取ッテモ十分其目的ヲ達スルコトモ得ラル、コトデアラウ、斯ウ云フコトデ卽チ「其ノ六分ノ一」ト云フノヲ「其ノ三分ノ一」ト云フ補助額ニ修正ヲ致シタヤウナ次第デアル、此事ニ就キマシテハ尙ホ精ク申上ゲテ宜シイコトデアリマスケレドモ旣ニ諸

君ガ十分御承知ノコトデアリマスカラ略シテ是ダケノ御報告ニ止メテ置キマスノデゴザイマス、而シテ其第三十六條ニ至リマシテ四月一日ヨリ施行スルコトニナッテ居リマスガ、是ハ四月一日ト申シマシテモ最早間モナイコトデゴザイマスカラ五月一日ヨリ施行セラルヽコトニ修正ヲ致シテ置イタ次第デアル、願クハ諸君ノ御贊同ヲ得マシテ速ニ此法案ノ可決ニナランコトヲ希望致シマス次第デアリマス

○男爵藤村紫朗君　チョット特別委員長ニ御尋致シマスガ、原案ノ第十三條修正ノ第十二條デゴザイマスガ茲ニ朱書ノ通修正ヲサレタ理由ノ御説明ヲ承リマシテゴザイマスガ、少シ私ニハ分リ兼ネマス、ト云フノハ傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過シタ後デナケレバ改葬スルコトハナラヌトアル、ソレデハ或ハ鐵道トカ道路ノ開鑿トカ云フコトニ實際差支ハセヌカト云フノデ公共ノ工事ノタメニ必要ナルトキハ警察官署ノ許可ヲ得テ改葬スルコトガ出來ルト云フ猶豫ヲ茲ニ取ラレタモノデゴザイマスガ抑〻三箇年ヲ經過スルニアラザレバ改葬スルコトガ出來ヌト云フコトハ或ハ感染又ハ病毒ノ發生ノ虞ガアルトカ云フコトヨリナラヌト原案デハ禁ジテアルモノト思ヒマスガ、ソレヲ公共ノ土工ノタメニハシテ宜シイト云フコトデアリマスガサスレバ公共ノ事業ニ附イテサウ云フ虞ガアッテモ差支ナイト斯ウ云フ御詮議デ斯ウナッタノデゴザイマセウカ、ドウ云フ御趣意デアリマスカ、抑〻三箇年ノ後デナケレバ改葬スルコトガ出來ヌト斯ウ云フト公共ノ土工デハ是ガ改葬シテモ宜イト云フ理由ガ少シ分リ兼ネマスガドウ云フ……

○男爵千家尊福君　公共ノタメニハ事實已ムヲ得ナイコトデアリマスカラ其場合ニ於テハ其人民ガ自分デ勝手ニ改葬スルコトハ許サナイケレドモ所轄警察署ノ許可ヲ得テスル場合ニ於テハ病毒ノ發生等ノコトハ十分消毒其他ノ方法ヲ施シテ如何ニモ事實ノ上ニ於テ危險ノナイト云フ場合ニ之ヲ差許スコトニナルデアラウト思フ、ソレ故ニ是ダケノ場合ハアケテ置ク方ガ最モ都合ガ宜イコトデアラウト斯ウ云フ意味合デ修正ヲシタ次第デアル、尙ホ其病毒ノコトニ附イテノ御疑ガアルナラバドウカ政府委員ニ十分御質問ニナルヤウニ願イタイト思ヒマス、宜シウゴザイマスカ

○男爵藤村紫朗君　分リマセヌケレドモ宜シウゴザイマス

〔男爵伊達宗敦君「能分リマシタ」ト述フ〕

○久保田讓君　私ハ此案ハ今函ノ中カラ受取ッタバカリデ能ク熟讀スル間ガアリマセヌガ唯文字ノコトデ氣ノ附イタコトガアリマスカラ……第四條ノ二項ニ公私立學校、病院製造所ト云フコトガアリマスガ、此公私立ト云フコトハ學校ダケデアリマスカ、製造所ナドニ及スノデアリマスカ、チョットソレヲ……

○男爵千家尊福君　病院ノ方モ總テ籠ル積……

○久保田讓君　公私立……

○男爵千家尊福君　左樣

○久保田讓君　製造所モ……

○男爵千家尊福君　製造所モ總テノ積……

○久保田讓君　船舶モ……

○男爵千家尊福君　船舶モ總テ……

○久保田讓君　船舶ニ公私立ト云フノハチトオカシイ

○男爵千家尊福君　船舶デスカ

○久保田讓君　ハイ

○男爵千家尊福君　船舶ノ中ニハ何モカモ籠ル

○久保田讓君　サウスルト餘程オカシイ

○男爵千家尊福君　公私立ト云フノハ是ハ學校ダケ

○久保田讓君　病院ハ……

○男爵千家尊福君　病院ハモウ唯、別ニ其邊ノ詮議ハ詳シクシナカッタデスガ……

○久保田讓君　ソレカラシテ又二十一條ニナルト官立學校病院製作所ト云フコトガアル、ソレヲ見マスルト公私立學校病院ハ公私立ノ病院ト云フコトデアラウト思フ、製作所モサウデアラウト思フ

○男爵千家尊福君　二十一條デスカ

○久保田讓君　左樣、元ノ二十一條

○男爵千家尊福君　是ハ政府ノ原案ニ係ル方デアリマスカラ私ニ御尋ニナルヨリ政府委員ニ御尋ニナッタ方ガ宜シカラウト思ヒマス

○久保田讓君　船舶ト云フノガ間ニ這入ッタカラ分ラヌ、公立私立ノ……

○男爵千家尊福君　船舶ニサウ云フモノヽナイコトハ明ナコトデアル

○久保田讓君　サウスルト製造所デ切レテシマッテ製造所ハ何ダカ分ラナイコトニナル、ソレカラモウ一ツ未ダ分ラヌノハ此四條ノ二項ニ製造所トアルガ二十一條ニハ製作所トアル、製作所ト製造所トハドウ云フ違ガアリマスカ

○男爵千家尊福君　ソレハ原案デセウ

○久保田讓君　併シ委員ガ餘リ御急ギニナッテ……チョット文字ヲ見タバカリデモサウ云フ疑ガアルカラ御尋ヲ申シマスノデ……

○男爵千家尊福君　同ジ原案ノ方ナラバ政府委員ノ方ヘ御尋ヲ願ヒマス

○久保田讓君　ソレデハ政府委員デモ宜シウゴザイマス

○男爵千家尊福君　私ノ心得漏シタコト、或ハ説明漏レノコト、或ハ誤ノアルヤウナコトハ他ノ委員モ御出デニナルコトデアリマスカラ他ノ委員カラモ御答ニナリマセウ

○久保田讓君　私ハドナタデモ宜シイ

○子爵曾我祐準君　本員ハ鐵道ノ何トカ云フ法案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスガ……

○男爵千家尊福君　御質問ヂヤナイノデスカ

○子爵曾我祐準君　……鐵道條例ノ改正法律案ヲ三ツバカリ引受ケテ居リマスカラ唯今ヨリ開キタウゴザイマス

○議長（公爵近衞篤麿君）　宜シウゴザイマス

○久保田讓君　是カラ引續イテ二讀會ヲ御開キニナラヌナラバ本日强テ質問ヲ致シマセヌデモ宜シウゴザイマスガ若シ二讀會三讀會ヲ御ヤリニナッテ極ルノデアリマスレバ伺ッテ置カヌト不都合デアリマスカラドナタデモ宜シウゴザイマスカラ明ニ……

○議長（公爵近衞篤麿君）　二讀會ヲ開クベキヤ否ヤハ未ダ決ヲ採リマセヌ、直グヤルヤラヌト云フ動議ハ固ヨリ唯今出テ居ルノデアリマセヌカラソレハ續イテヤルカヤラヌカト云フコトハハッキリ御答ハ出來マセヌ

○松岡康毅君　私モ委員ノ一人デゴザイマスガ、末ノ方ハ出マセヌデ能ク心得マセヌガ、久保田君ノ御尋ハ公私立ト云フ字ハドコマデ掛ルカト云フコト元ノ第十一條ノ官立ト云フコト、ドウカト云フ御尋デゴザイマシタガ此「船舶」ヲ入レマシタガ爲ニ少シモ差支ヲ生ズルコトハナイ積デゴザイマス、ト申スノハ四條ノ所ハ社寺ナリ公私立學校デ切レマス、サウシテ病院製造所、船舶ガ這入リマセウトモ病院ヤ製造所ハ公立私立ト云フコトハ無論冠ラシテ居ナイ積デゴザイマス、ソコデ唯學校ノ所ダケニ公私立トアリマシテ元ノアッタ儘ヲ其儘認メマシタノデアリマス、其アトニ船舶ヲ入レタダケデ、是ハ公立ノ船舶私立ノ船舶ナドヽ云フコトハ無論見テ居リマセヌ、二十一條

ノ官立ダケデアリマス、ソコデ委員會ニ於テハ不都合ノナイト云フコトダケデ別段異論ハゴザイマセナンダガ、尚ホ其上ノコトハ政府委員カラ定テ御答辯ガアルダラウト存ジマス

○議長（公爵近衛篤麿君）　大體ニ附イテノ御質問ガゴザイマセズバ第二讀會ニ移ルヤ否ヤト云フコトヲ問フノデゴザイマス、第二讀會ニ移ルベシト決シテ宜シウゴザイマスカ

〔「異議ナシ」ト述フル者多シ〕

然ラバ第二讀會ニ移ルベシト決シマシタ、此際御報告ヲ致スコトガゴザイマス、協議會ノ結果ニ附キマシテ衆議院ヨリ通牒ガゴザイマシタカラ書記官長ニ朗讀ヲ……

〔中根書記官長朗讀〕

本院ハ明治三十年度歳入歳出總豫算案兩院協議會ノ成案ヲ可決セリ因テ議院法第五十六條ニ據リ及送付候也

明治三十年三月十九日

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

衆議院議長鳩山和夫

〔子爵谷干城君演壇ニ登ル〕

○子爵谷干城君　過刻本員等始十八ノ協議員ヲ諸君ヨリ御選定ニナリマシテ即チ衆議院ト協議會ヲ開キマシテゴザイマス、デ其協議ノ大略ヲ御報告致シマスルデアリマスルガ、即チ此本院ヨリ持出シマシタ所ノ二箇條有給官吏ノ者ニ手當ヲ遣ルハ當ラナイト云フヨリシテ各調査會委員會等ノモノヽ引當テノ金ノ内カラ削リ去リマシタ分、又一ハ農商務ノ此林區ノ入費ノ所ニゴザイマシテ衆議院デ削ッテアルモノヲ本院ニ於テ政府案ノ如ク復活ヲ致シタ、此二箇條、デ此二箇條ニ於キマシテ委員會即チ本會議ニ於キマシテ反覆御討論ニナリマシタル所ヲ以チマシテカラニ衆議院ノ協議員ト反覆辯論ヲ費シマシテゴザイマスルガ、午前ニ於キマシテハ遂ニ相談ガ纏リマセズ休會ヲ致シマシテ食後引續會議ヲ開キマシテカラニ遂ニ結了致シタ譯デアリマス、デ其間本院ノ協議會ニ於キマシテモ本院ノ決議ヲ重ジマシテカラニ反覆辯論ヲ致シマシタケレドモ何分向フニ於キマシテモ亦ソレ〳〵各〻執ル所ノ主義モゴザイマスルシ、事情モゴザイマシテ全ク本院ノ見込通ニ二箇條トモ同意スルト云フコトハ出來ナイト云フ結果ニナリマシタ、デ併ナガラ貴衆兩院ニ於キマシテモ誠ニ其談判タルヤ穩當ナル談判デアリマシテ眞ニ協議ノ體裁デ熟議ヲ遂ゲマシタ結果遂ニ森林、此ノ林區ノ方ノ政府案ニ本院ニ於テ復活致シタ此箇條ニ於テハ衆議院ガ即チ本院ノ議ヲ重ジテ之ヲ讓ッテ承諾スル、斯ウ云フコトニナリマシタ、デ本院ヨリ持出シタ一箇條ノ有給官吏ヘ手當ヲ遣ルハ不當ト云フコトデ此内カラシテ計算フシテ引去ッタ事柄ニ於キマシテハ協議員ニ於キマシテモ向フノ請求ヲ容レマシテカラニ讓リマシテゴザイマスル、デ即チ互ニ一ツヅツヲ讓ッテ、協議ガ纏リマシテゴザイマス、甚ダ二箇條持出シタモノヲ一箇條彼方ニ讓ッタト云フノハ殘念ノヤウデハアリマスケレドモコヽガ協議ノ必要ナ所デアリマスルデ向フガ之ヲ承諾シテ參ッタ以上ハドウゾ本院ニ於キマシテモ諸君御同意アッテ本員等始メ此協議員ノ協議ヲ容レラレンコトヲ希望致シマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵近衛篤麿君）　協議會ノ結果ハ唯今谷子爵カラ述ベラレタ通デアリマスルデ此際ニ議事日程ヲ變更シマシテ唯今ノコトヲ直グニ議シテハ如何ト思ヒマス

〔「異議ナシ」「贊成」ト述フル者アリ〕

○男爵安場保和君　協議會ノ結果ヲ今委員長ヨリノ報告ガゴザイマシタガ少シ其缺漏ヲ補ッテ置キタイト存ジマス

○議長（公爵近衛篤麿君）　宜シウゴザイマス

○男爵安場保和君　協議會ノ結果ニ附キマシテハ唯今委員長ヨリ御報告ノ通デアリマシテ他ニ申スコトモゴザイマセヌケレドモ少シク協議會ノ唯今谷君カラ御報告ノコトニ附キマシテ一ハ本院ノ決議ヲ衆議院ヨリモ讓リ一箇條ハ本院ヨリ衆議院ノ議ニ讓ッタト云フハ殘念デアルト云フ御報告デアリマシテ固ヨリ我〻ニ於キマシテハ貴族院ノ面目ト云ヒ元〻衆議院ノ決議案ヲ變更スルト云フコトハ實ハ好マシカラヌ、ケレドモ已ムヲ得ズ其主義ニ於テ削ラザルヲ得ヌト云フ所デ各委員調査會等ノ有給官吏ニ大體手當ヲ給スルコトハ宜シクナイト云フコトノ主意ハ金高ニ於テコソ僅カノ金高デアリマスケレドモ其關ル所ハ大イニ要用ナ事件デアッテ今日所謂官紀振肅ト云フ點ニ於キマシテハ金高ノ瑣末ナルニ拘ラズ大キニ官民ノ意向ヲ振肅スルニ於テハ必要ナコトヽ認メテ金銀ノ多少ニ拘ラズ削減ヲ行フタ次第デアリマス、然ルニ其緊要ナルコトヲ何故ニ衆議院ノ議ニ從フタカト云フ御疑念ガ或ハ滿場諸君ニ於テモ其感觸ガアリハセヌカ思フ、我〻ニ於テモ勿論其感ハアリマシタ、併ナガラ衆議院ノ主意ガ即チ豫算委員會ニ於テ反覆討論ノ上右當該官吏ニ於テモ是等ノ所行ニ於テハ衆議院ノ第一決議ヲ重ジズ情實ニ流レテ右樣ナ嫌疑ノ取扱ヲ致シタ宜シクナイト云フコトハ十分ニ貫徹ヲ致シマシテ假令削減ヲ行ハズシテ其儘ニナリマシテモ其豫算委員會ノ現狀ハ決シテ不當ナ說ニハ思ハナイト云フコトガ確ニ認メラレタニ依ッテ金額ヲ削ルト云フコトハナクテモ趣意ハ達セラレルダラウト云フ衆議院ノ方ノ論法ハ是ハ亦一理アル論法デアルト云フ所ヨリアノ削減ノ箇條ハ衆議院ニ讓リ遂ニ僅ニ行違ヨリ致シテ豫算不成立ト云フヤウナ國家不祥ナコトニ立至ラヌヤウニト云フ所ヨリ同意ヲ表シタ次第デアリマス、右ノ所ヲ滿場ノ諸君御了承下サルコトヲ希望致シマス

○議長（公爵近衛篤麿君）　協議委員ノ成案ヲ朗讀致ス筈デアリマスガ、是ハ金額ノ變更デアリマシテ大體ノ上ニ附イテモチヨット急ニ勘定ガ附キ惡イコトデアリマスカラ唯今谷子爵並ニ安場男爵ノ御報告ニ依ッテ意味ハ十分ニ御了解ニナッテ居ラウト思ヒマスカラ朗讀ハ省略ヲ致スコトニ致シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

協議會ノ成案ハ御異議ガ無イト認メテ宜シウゴザイマスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

然ラバ可決ニナリマシタ

○子爵稻垣太祥君　保稅倉庫法案ノ委員會ヲ唯今ヨリ開キタウゴザイマスガ退席致シテ宜シウゴザイマスカ

○議長（公爵近衛篤麿君）　宜シウゴザイマス

○宮本小一君　モウ何デゴザイマスカ、唯今ノ兩院協議會ノコトハ極リマシタノデゴザイマスカ

○議長（公爵近衛篤麿君）　アレハ濟ミマシタ

○宮本小一君　サウ致シマスレバ、アトハ傳染病ノ方ニ戻リマスカ

○議長（公爵近衛篤麿君）　傳染病ノ方ハ一讀會ハ先程終リマシタ、御發議ガナケレバ二讀會ヲ開クコトニハナリマセヌ、御發議ガナケレバ次ノ日程ニ移リマス

○宮本小一君　ソレデ引續キマシテ傳染病ノ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○久保田讓君　私ハ反對ヲ致シマス、ドウモ斯ウ云フコトヲ餘リ御急ギニナ

ルノハ宜クナイ、チョット私ガ一讀シテ見タ所カ斯ノ如キ疑ガアッテ、松岡君ハ最前辯ゼラレタガ今此ニ立至ッテ困ッテ居ラレルヤウデアリマスカラ……二讀會ハ今日開カレナイ方ガ宜イト思ヒマス

〔「贊成」ト呼フ者數名アリ〕

○議長（公爵近衛篤麿君）二讀會ヲ開クベシト云フ說ハ贊成ガアリマセヌカラ……

○侯爵細川護成君　唯今ヨリ議事日程ヲ變更シテ明治二十七年法律第二十三號改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ引續イテ開カレンコトヲ望ミマス、是ハ極簡單ナモノデアリマシテ何モ態ミ明後日マデ延シテ議スルホドノモノデモナイト思ヒマス、直グ濟ム案ト本員ハ考ヘマス

○男爵西五辻文仲君　贊成

○議長（公爵近衛篤麿君）議事日程變更ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

然ラバ議事日程變更ニナリマス、明治二十七年法律第二十三號改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

〔侯爵細川護成君演壇ニ登ル〕

○侯爵細川護成君　此度明治二十七年法律第二十三號改正法律案ハ戰時又ハ事變ニ際シマシテ召集スル所ノ在鄕ノ陸軍軍人又ハ兵役ノ義務アル者ニ支拂ヲスルノ法律案デアリマスル、此度改正ノ點ハ是マデノ法律ニハ「在鄕ノ陸軍ノ下士兵卒」トアリマシタ、唯下士兵卒トアリマシテハ將校ガ這入リマセヌ、將校ニ旅費ヲ支給スルニ此法律ヲ必要ト認メマシタデ「陸軍軍人」トシマシタノデ、其次ニハ又第二項ノ「旅費召集諸費」元ハ唯「旅費ニ付テハ」トアッタノデ、「旅費ノミナラズ召集ノ諸費ハ卽チ郵便印紙代トカ紙代トカ云フモノモ矢張掛リマス、是モ「召集諸費」トナッタ方ガ宜イ、其下ノ方ニナリマシテ「市町村長市ノ區長竝ニ戶長及之ニ準スヘキ者」トアリマス、元ハ市町村吏員ト書イテアッタノデ、ソレヲ此度斯ウ云フ風ニシテ出サレマシタノデアリマス、ソレダケノ改正ニナリマシテ末項ヲ加ヘ今度改正法律案トシテ出サレタノデ衆議院ニ於テ可決ニナリマシタノデアリマス、委員會ニ於キマシテモ僅五分間バカリデ可決シテシマヒマシタ、何モムツカシクモ何トモナイ案デアリマスカラ、ドウゾ是ハ相變ラズ讀會省略デ可決アランコトヲ希望致シマス

○伯爵大原重朝君　讀會省略ニ贊成

○子爵本莊壽亘君　贊成

○南鄕茂光君　贊成

○子爵小笠原壽長君　贊成

○磯邊包義君　贊成

○渡邊甚吉君　贊成

〔「贊成」ト呼フ者數名アリ〕

○議長（公爵近衛篤麿君）細川侯爵ノ讀會省略ノ動議ハ成立チマシタ、讀會省略ニ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

明治二十七年法律第二十三號改正法律案

戰時若クハ事變ニ際シ召集スル在鄕ノ陸軍軍人及兵役義務アル者竝ニ之ヲ引率スヘキ者ニ支給スヘキ旅費召集諸費ニ付テハ市町村長市ノ區長竝ニ戶長及之ニ準スヘキ者ニ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長市ノ區長竝ニ戶長及之ニ準スヘキ者ニ對シ會計法第九章ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

平時在鄕ノ陸軍軍人及兵役義務アル者ヲ召集スル場合ニ在テモ前諸項ヲ適用スルコトヲ得

○議長（公爵近衛篤麿君）然ラバ本案ハ可決ト認メテ宜シウゴザイマスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

然ラバ本案ハ可決致シマシタ、次ハ國費ヲ以テ教科用圖書ヲ編纂スルノ建議、小暮英三郎君發議、朗讀ヲ致シマス

〔阪本書記官朗讀〕

國費ヲ以テ教科用圖書ヲ編纂スルノ建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治三十年三月十七日

發議者

小暮英三郎

贊成者

子爵谷干城

外三十名

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

國費ヲ以テ教科用圖書ヲ編纂スルノ建議

惟フニ小學讀本及修身科用書ハ國民教育ノ盛衰ニ關シ延テ國家ノ隆替ニ及フ所以ニシテ其ノ撰著ハ最モ愼重セサルヘカラサルハ論ヲ俟タス然ルニ現今行ハルヽ所ノ文部省檢定濟ノ小學校教科用圖書ハ間々國語國字ノ用方ヲ誤リ文體ヲ成サス其ノ意味ヲ解セサルモノナキニアラス且其ノ紙質粗惡ニシテ毀損シ易ク賣價不廉ニシテ細民ノ常ニ購求ニ苦ムモノ亦少カラス之ヲ書肆ノ營利事業ニ一任セハ到底是等ノ弊ヲ矯ムルコト能ハス依テ政府ハ國家事業トシテ適當ナル方法ヲ設ケ一定ノ方針ニ據リ國費ヲ以テ完全ナル小學讀本及修身科用書ヲ編纂シ其ノ賣價ノ如キモ成ルヘク之ヲ低廉ニシ多數ノ學齡兒輩ヲシテ容易ニ購求スルコトヲ得シメ以テ國民教育ノ實ヲ擧ケ國運振張ノ基礎ヲ擴充セラレムコトヲ希望ス因テ茲ニ之ヲ建議ス

〔小暮英三郎君演壇ニ登ル〕

○小暮英三郎君　私ノ提出致シマシタ國費ヲ以テ教科用圖書ヲ編纂スルノ建議案デゴザイマスガ私ハ御話ヲスルノガ誠ニ下手デゲシテ……ノミナラズ昨日アタリヨリ少々不快ノ加減デ明細ノ所ハ申上ゲラレマセヌ、地方デ今用ヒテ居リマスル所ノ修身書竝ニ讀本デゴザンスガ此修身書ガ二十課ニナッテ居リマスガ其中七課ノ誤ガゴザイマス其外他ノ本ニ行キマスト二十課ノ中ニ十八課ノ間違ガゴザイマス、ソレデ東京デ今用ヒテ居リマスル所ノ修身書ハ十條ノ中ニ八條ノ間違ガゴザイマス、全體讀本ノ中ニ是ハ善イ所ハ少シモナク丸デイカナイモノデゴザンス、ソレデ斯ウ云フ本ガ殘ラズ文部省ノ檢定濟ト云フコトニナッテ居リマスガ、ドウ云フコトヲ檢定致シタモノカサッパリ本員ニハ分ラヌ、カウソレニハ此種々ナ弊害モ新聞上ナドデモ見エマスシ實際各縣ニモ大シタ弊害ガゴザイマス、因テドウカ提出致シマシタ通國費ヲ以テ教科用圖書ヲ政府デ編纂セラレンコトヲ望ミマスル、ドウカ御贊成アランコトヲ偏ニ希望致シマス

○子爵本莊壽亘君　ドウモ能ク聞取リニクウゴザイマシテ分リマセヌカッタケレドモ詰リ大體ニ附イテハ私モ此建議案ニ贊成シマス、併シ此建議書中ニ

アリマスガ、文部省檢定濟ノ小學校教科用圖書ハ問ミ國語國字ノ用ヒ方ヲ誤ッタリ文體ヲ成サズ意味ヲモ解セザルヤウナモノガアル、ソレニ文部省ハ檢定ヲ與ヘテ居ルト云フヤウニ書イテアリマスガ果シテ文部省ガサウ云フヤウナ教科書ニテモドシ〳〵檢定濟ニ仕居ッタモノデスカ、ソレハ何ノ本デドウ云フ所ガサウ云フ譯ノモノデスカ、簡單ニ……

○小暮英三郎君　チョット一二箇條申上ゲマセウ小學修身經デゴザイマスガ是ガ今申上ゲマシタ通二十課ノ中七課ノ誤ガゴザイマスガ第二章ニ至ッテ「父母ヲ喜ハシムヘシ」ト云フ是ハ其前ノ齣ノ第一課ニ「天子樣ヲ尊ムヘシ」ト云フコトガゴザイマス之ニ對シテ見ルト云フトドウシテモ是ハ「敬フヘシ」トナラヌケレバイカヌ、ソレカラ其次ヘ行キマスト

〔子爵本莊壽巨君「何ノ本デスカ初ノ本ノ名ヲ聞落シマシタガ」ト述フ〕

小學修身經

〔子爵本莊壽巨君「イツノデスカ」ト述フ〕

今用ヒテ居ル、是ハ何デス文學士ノ天野ト云フ人ガコシラッタノデス

〔子爵本莊壽巨君「ソンナラモウ宜シウガス」ト述フ〕

御話スレバ澤山ゴザイマスケレドモ皆同ジヤウナモノデス

○議長（公爵近衛篤麿君）　御異議ガナクバ本案可決ト見テ宜シウゴザイマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

然ラバ其通……次ニチョット御報道スルコトガアリマスガ鐵道敷設法中改正法律案ニ附イテ衆議院カラ復協議會ノ要求ガアリマシタ、其要求書ヲチョット朗讀致サセマス

〔中根書記官長朗讀〕

鐵道敷設法中改正法律案

右案ニ付本院ハ貴院ノ修正ニ同意セサルコトニ決議セリ因テ議院法第五十五條ニ依リ兩院協議會ヲ開クコトヲ請求候也

明治三十年三月十九日

衆議院議長鳩山和夫

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

本院ハ鐵道敷設法中改正法律案協議會委員ノ數ヲ十名ト爲スニ決セリ此段及通知候也

明治三十年三月十九日

衆議院議長鳩山和夫

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

○議長（公爵近衛篤麿君）　復議事日程ヲ變更シテ直ニ協議會委員ヲ選擧スルト云フコトニ致シタラ宜カラウト思ヒマスガ御異議ガナクバサウ云フコトニ致シマス

○子爵堤功長君　唯今ノ協議委員ノ選定ハ議長ニ御委託ヲ致シマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵近衛篤麿君）　委員ヲ選ブハ議長委託ト云フコトニ御異議ナクバ其通ニ致シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵近衛篤麿君）　次ニ復祿及復族祿ノ請願會議……

〔侯爵細川護成君「其前ニモウ一ツアリマス」ト述フ〕

イヤ是ハ誤リマシタ、特別市制撤去ノ請願、會議

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

意見書案

特別市制撤去ノ件

京都市參事會京都府知事男爵由田信道呈出

右ノ請願ハ京都府ハ管轄區域廣大ニシテ事務ノ繁劇ナル他地方ノ比ニ非サルヲ以テ府知事已下常ニ本務ニ忙シク復本市ニ盡スヘキ餘力ナキモノ、如シ然レトモ特例ノ定ムル所已ヲ得ス其ノ事務ヲ兼攝ス故ニ本市ハ專務吏員ヲ闕クノ姿トナリ百事姑息ヲ免レス特ニ府知事ハ一方ニ府行政ヲ掌リ市行政ヲ監督シ市ノ行政ニ對シ裁決スヘキ職權ヲ有スル者ナルニ却テ其ノ監督ノ下ニ立チ市行政ヲ統轄スヘキ市長ヲ兼攝スルハ職務上錯雜紛亂ナキ能ハサルノミナラス遂ニ彼我ノ利益ヲ保全スル能ハス爲ニ市民ノ權利ヲ傷害スルモノ往々之アリ實ニ特別市制ハ市民ノ不利不幸ヲ來スコト大ナリト謂フヘシ故ニ明治二十二年法律第十二號特別市制中ヨリ京都市ヲ除去セラレ本市民ヲシテ自治ノ機關ヲ完備シ其ノ發達ヲ圖リ進テ殖產興業ノ隆盛ヲ期シ前途ノ大計ヲ定メ自治ノ本旨ヲ完クスルコトヲ得セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十年三月　日

貴族院議長公爵近衛篤麿

○馬屋原彰君　此請願ハ京都府知事ヨリ京都市參事會ヲ代表シテ提出シタルモノデアリマス、其要旨ハ卽チ此案ヲ摘載シテアル通デアリマシテ要スルニ府ノ知事ニシテ市長ヲ兼ヌルト云フコトハ到底ドチラノタメニモナラヌ、依テ京都市ダケハドウゾ其普通ノ市制ヲ維持シタイカラ特別市制ノ中カラ京都府ダケハ取除イテ貰ヒタイト云フ斯ウ云フ趣旨デアリマス、ドウカ意見書案ノ通リニ御贊成ヲ願ヒマス

〔「贊成」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵近衛篤麿君）　御異議ナクバ原案可決ト認メマス、次ニ復祿及復族祿ノ請願會議

意見書案

復祿及復族祿ノ件

一　東京府北豐島郡日暮里村士族鈴木時敏外六十名呈出

二　高知縣土佐郡潮江村平民武市竹三郎外七十名呈出

三　京都府上京區小川元誓願寺北ヘ入田中榮藏外九十九名呈出

四　德島縣板野郡撫養町平民田島光太郎呈出

五　鳥取縣鳥取市吉方町士族村田幸藏外三名呈出

六　兵庫縣揖保郡石海村平民兒島正勝呈出

七　秋田縣南秋田郡下新城村平民近谷祇磨呈出

八　福岡縣福岡市大名町平民丸山千尋外六十三名呈出

九　同縣同市濱ノ町士族野村祐雄外五千六百四十二名呈出

十　愛媛縣宇摩郡三島村士族眞鍋一雄外十名呈出

十一　岡山縣上道郡玉井村平民日下部健二外百八名呈出

十二　愛知縣西加茂郡擧母町平民篠田勝三郎外二十九名呈出

十三　福井縣足羽郡麻生津村士族小林岩作外五百六十名呈出

十四　福岡縣朝倉郡栗田村平民高瀨彌十郎外十一名呈出

十五　同縣嘉穗郡足白村平民瀧下仲右衞門外五十六名呈出

十六　同縣朝倉郡秋月町平民井上新助外二百四十六名呈出

十七　同縣同郡上秋月村平民久我德市外十九名呈出
十八　同縣同郡秋月町平民倉地福太郎外二十名呈出
十九　同縣同郡同町士族久野安業外五百二十七名呈出
二十　岡山縣上房郡高梁町士族山本慶輝外五十五名呈出
二十一　青森縣三戸郡八戸町平民青木元次郎外四名呈出
二十二　同縣同郡同町平民森越福太郎外十七名呈出
二十三　同縣同郡館村平民市川圓三外一名呈出
二十四　兵庫縣津名郡洲本町平民岡田寅太外二十名呈出
二十五　同縣同郡鮎原村平民高津雅雄外三十六名呈出
二十六　鳥取縣東伯郡上小鴨村士族箕原猪之吉外四名呈出
二十七　兵庫縣飾磨郡花田村平民有川總三郎外二十五名呈出（二通）
二十八　同縣姫路市大黒町士族今村勘助外二名呈出
二十九　鹿兒島縣日置郡日置村士族池田作藏外七十一名呈出
三十　島根縣松江市天神町士族景山キヨウ呈出
三十一　熊本縣上益城郡御船町士族木庭元栗外二名呈出

右ノ請願ハ陳述スル所ノ理由各〻多少ノ差異アレトモ要スルニ第一ハ維新ノ際其ノ族祿ヲ併セ失ヒシカ後屢〻歎願スル所アリ客年復族ノ恩命ヲ得タルヲ以テ舊家祿ニ照シ幾分ノ現金若クハ公債證書ヲ下賜セラレムコトヲ請願シ、第二ハ士族ニ列セラルヘキ資格アル者ナルニ藩制改革ノ際誤テ民籍ニ降サレタレハ其ノ族ヲ復セラレムコトヲ請願シ、第三第四ハ士族ニ列シ祿ヲ受クヘキ者ナルニ故ナク其ノ族祿ヲ併セ失ヘルヲ以テ之ヲ復舊セラレムコトヲ請願シ、第五ハ曩ニ誤テ民籍ニ降サレシモ後士籍ニ編入セラレタルヲ以テ金祿公債證書不足額ノ追給ヲ請願シ、第六、第七ハ舊神官ニシテ士族ニ列シ家祿ヲ給セラルヘキモノナレハ他ノ同格者ノ如ク其ノ族祿ヲ復セラレムコトヲ請願シ、第八ハ舊藩士卒ノ子弟ニシテ別家トシテ抱ヘラレタル者ナルニ明治六年故ナク其ノ族祿ヲ廢除セラル故ニ之ヲ復舊セラレムコトヲ請願シ、第九ハ祿制改革ノ際藩吏ノ錯誤ニ因リ從來ノ除ケ米ヲ扣除セラレ爲ニ其ノ祿高ヲ減殺セラル故ニ之ヲ還給セラレムコトヲ請願シ、第十ハ曩ニ故ナク民籍ニ降サレシカ後士族ニ列セラレタルヲ以テ之ニ伴フ所ノ金祿公債證書ノ下賜ヲ請願シ、第十一、第十二、第十四ハ士族ニ列セラルヘキ者ナルニ故ナク民籍ニ降サレタレハ其ノ族ヲ復セラレムコトヲ請願シ、第十三ハ曩ニ故ナク民籍ニ降サレシモ後復族ノ恩命ヲ蒙リシヲ以テ之ニ伴フ所ノ金祿公債證書ノ下賜ヲ請願シ、第十五、第十六、第十七、第十八ハ士族ニ列シ家祿ヲ受クヘキ者ナルニ故ナク其ノ族祿ヲ廢除セラル故ニ之ヲ復舊セラレムコトヲ請願シ、第十九ハ受祿ノ際官吏ノ錯誤ニ因リ除ケ米ヲ扣除セラレタレハ之ヲ還給セラレムコトヲ請願シ、第二十ハ曩ニ家祿ヲ奉還シタル者ナルカ他ノ金祿公債證書ヲ下賜セラレタル者ニ比スレハ拜受ノ資金甚シキ差違アルヲ以テ其ノ不足額ノ追給ヲ請願シ、第二十一、二十二、二十三、二十四、二十五ハ士族ニ列シ家祿ヲ給セラルヘキ者ナルニ藩制改革ノ際故ナク其ノ族祿ヲ廢先代戰死ノ功ニ因リ家祿ヲ受ケシ者ナルニ藩制改革ノ際故ナク其ノ祿ヲ廢セラル故ニ之ヲ復セラレタルヲ以テ之ニ伴フ所ノ家祿ヲ下賜セラレムコトヲ請願シ、第二十九ハ祿制改革ノ際故ナク其ノ祿ヲ廢セラレタルヲ以テ之ヲ復セラレムコトヲ請願シ、第三十ハ曩ニ家祿ヲ奉還シタル者ニシテ他ノ金祿公債證書ヲ下賜セラレタル者ニ比スレハ拜受ノ資金甚シキ差違アルヲ以テ其ノ不足額ノ追給ヲ請願シ、第三十一ハ維新ノ戰功ニ因リ賞典祿ヲ賜ハリシニ明治六年以後故ナク之ヲ廢セラルヽヲ以テ之ヲ復舊セラレムコトヲ請願スル者ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊三十二通及送付候也

明治三十年三月　日

貴族院議長公爵近衛篤麿

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

○馬屋原彰君　此復祿及復族祿ノ請願ハ何レモ先例ニ照ラシテ可決シタルモノデアリマスル、依ッテ先例ニ依リ政府ニ送付スルコトニ致シタイノデ、是モ御贊成ヲ願ヒマス

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○男爵小松行正君　本員ハ是モ異議ハゴザイマセヌガ、馬屋原君ハ御叮嚀ニ一々御說明ガゴザイマスガ、御省略ニナリマシタナラバ大ニ議事ノ捗取リ方ガ宜カラウト思ヒマス

（「のう〳〵」ト呼フ者アリ）

○議長（公爵近衛篤麿君）　御異議ナクバ原案可決ト認メマス、次ニ特別輸出入港開設ノ請願會議

特別輸出入港開設ノ件

意見書案

青森縣青森商業會議所會頭渡邊佐助呈出

右ノ請願ハ青森港ハ本州ノ盡頭ニシテ前ハ北海道ヲ望ミ後ハ東北奥羽二大鐵道ノ歸著點ヲ占メ交通頻繁百貨輻輳スル而シテ視線ヲ海外ニ轉セハ魯領沿海及薩哈連島ハ殆ント眼底ニ髣髴タルノ感アリ眞ニ帝國東北ニ於ケル唯一ノ最好貿易地ナリトス抑モ國家カ貿易港ヲ指定スルヤ須ク地勢ヲ察シ土宜ヲ考ヘ決シテ一地方ニ集合シ若クハ一地方ニ絕無ナルカ如キコトアルヘカラス然ルニ今ヤ我國ノ現況ヲ觀察スルニ其開港場ハ勿論特別輸出入港ノ如キモ西南ニ多クシテ東北ニ甚少ク横濱以南山陰山陽若クハ九州ノ如キ其開港地相望ムト雖横濱新潟以北ニ至リテハ北海道ヲ除ケハ全ク絕無ナルニアラスヤ是レ古來奥羽地方ノ物產ニ乏シキニ因ルナルヘシト雖今ヤ交通大ニ開ケ產業ノ道著シク進ミ物產ノ豐富ナル人口ノ衆多ナル殆ト關西地方ニ讓ラス隨テ青森ヲ經テ函館小樽ニ到リ更ニ魯領沿岸等ニ輸出スルノ物貨甚多ク就中米穀ノ如キ年一年ニ增額スルハ亭實ノ證スル所ナリ然ルニ未タ一ノ開港場又ハ特別輸出入港ナキハ寔ニ通商上ノ一大缺點ニシテ國家ノ一大不幸ナリトス故ニ本港ヲ以テ特別輸出入港ニ指定セラレタシト旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十年三月　日

貴族院議長公爵近衛篤麿

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

○馬屋原彰君　是ハ御覽ノ通青森縣青森港ヲ二十九年ノ法律第十八號ニ依ッテ特別輸出入港ニ指定シテ貰ヒタイト云フノガ、願意デアリマシテ、其理由ハ本案ニ摘載シテアル通デアリマス、是モ政府ニ送付スルコトニ致シタイノデゴザイマスカラ贊成ヲ願ヒマス

（「贊成」ト呼フ者アリ）

○議長（公爵近衛篤麿君）　御異議ナクバ原案ニ決シマス、次ハ下ノ關門司兩

港ヲ開港外輸出入港ト爲スノ請願會議

意見書案

下ノ關門司兩港ヲ開港外輸出入港ト爲スノ件

福岡縣企救郡門司町平民中村市藏外一萬四千八百三十九名呈出
山口縣赤間關商業會議所會頭松尾寅三郎呈出
同縣赤間關市竹崎町平民關野由藏外三千九百二十二名呈出
廣島縣廣島商業會議所會頭桐原恆三郎呈出

右ノ請願ハ下ノ關門司ノ兩港ハ共ニ我邦西門ノ咽喉東西交通ノ要路ニ當リ古ヨリ山陰山陽四國九州ノ中央市場ナルヲ以テ東ハ山陽鐵道西ハ九州ノ各鐵道幹支ノ諸線ヲ計畫起工シ海陸連通シテ益々四通八達ノ便ヲ極ム明治十六年朝鮮貿易港ト定メラレ二十二年米外四品ノ特別輸出港ト爲ル然レトモ未タ以テ我國西部一體ノ商路ヲ開通スルニ足ラス二十八年ノ統計ニ視ルニ下ノ關港輸出入貨物合計金貳千貳百參拾壹萬千五百圓ノ巨額ニ達シ之ニ門司港ノ貨物ヲ加レハ其ノ額ノ大ナル横濱神戸ヲ除キ全國ニ於テ之ト比肩スルモノナシ然ルニ未タ輸出入港タルヲ得サルカ爲其ノ貨物ハ必ス神戸長崎ヲ經由セサルヘカラサルヲ以テ徒ニ無用ノ時日ト運賃トヲ消費シ商業上迅速敏活ヲ闕キ延テ地方殖産興業ノ發達ヲ阻礙スル少シトセス是ヲ以テ地方人民ハ從來兩港ヲ以テ開港外輸出入港ト定メラレムコトヲ熱望シ豫メ其ノ準備ニ汲々トシテ諸般ノ畫策既ニ其ノ緒ニ就ケリ若シ兩港ヲ輸出入港ト定メラルレハ西部諸州ハ外ハ未製品ノ輸入ヲ至便ニシ內ハ勞力ノ低廉ヲ利用シ殖産興業日ヲ逐テ勃興シ國家ノ利益爲ヨリ大ナルモノ莫ケレハ速ニ兩港ヲ以テ二十九年法律第十八號ノ範圍內ニ加ヘ開港外輸出入港ト指定セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキ者ト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊四通及送付候也

明治三十年三月　日

貴族院議長公爵近衛篤麿

內閣總理大臣伯爵松方正義殿

○馬屋原彰君　此請願ハ下ノ關港及門司港ハ一層商路ヲ開通スルタメニ開港外ノ輸出入港ニ指定シテ貴族ト云フノ趣旨デアリマシテ、此下ノ關港ノ如キハ既ニ是ト同一ノ請願ヲ過日政府ニ送付ニ相成ルコトニナッタル先例ニ汲々トシテ諸般ノ畫策既ニ其ノ緒ニ就ケリ若シ兩港ヲ輸出入港ト定メラルレハ西部諸州ハ外ハ未製品ノ輸入ヲ至便ニシ內ハ勞力ノ低廉ヲ利用シ殖産興業日ヲ逐テ勃興シ國家ノ利益爲ヨリ大ナルモノ莫ケレハ速ニ兩港ヲ以テ二十九年法律第十八號ノ範圍內ニ加ヘ開港外輸出入港ト指定セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキ者ト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊四通共矢張政府ニ送付スルコトニシタイノデアリマスカラ御贊成ヲ願ヒマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○子爵谷干城君　是ハ一言述ベテ置カネバナラヌ、此下ノ關、門司アノ間ノ國防ニ必要ナルコトハ聊軍事ニ心ヲ用ヒル者ノ知ラナイコトデハナイノデ、ソレデ彼處等ノ所ヲ特別輸出港ナドニスルト云フコトハ到底許シ得ベカラザルコトデアル、殊ニ今日此海陸軍擴張、海陸軍必要、或ハ東洋ノ形勢ナドト云ウテ何如ニモ穩ナラヌコト能ク聞ク、斯ノ如キ時機ニ際會シテ呑氣ナル是ハ請願デアル、デ固ヨリ定テ政府ニ於テモ是ハ決シテ許スベカラザルモノトスルハ必然ノコト、若シ之ヲ許スヤウナコトニナッテハ萬一事ガアッタ場合ニハ甚ダ不都合デアル、是ハ本員ハドウゾ下ノ關門司兩港ノ人民ヲシテ國家ノタメデアルト云フ觀念ヲ以テ斷念スルヤウニ本院ニ於テ否決シテ差返ス方ガ宜カラウト思ヒマスカラ、政府ヘ送付スルハ要ラナイ、是亦政府ニ送付スルヤウニナルト、コモヤ……往カレルカ往カレルカデ、年々歲々無益ノ金ヲ使フテ請願ニ人ヲ出スノハ氣ノ毒ナコトデアルカラ是ガ爲スベカラザルコトデアレバ此處デ否決シテシマフ方ガ宜カラウト思フ

○侯爵醍醐忠順君　贊成

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○男爵安場保和君　此請願書ハ谷君ヨリ決シテ許スベカラザル理由ヲ兩港ノ人民ニ諭シテ早ク安心サセルガ宜シイト云フ御論ガアリマシテ、一應御尤ニモ存ジマス、併ナガラ本員ヨリ之ヲ見ルトキハ決シテ之ヲ許スベカラズト云フ理由ハナイコトデアルト考ヘル、其所以ハ種々アリマスケレドモ、其要點ヲ摘ンデ申シマスレバ、則チ馬關門司ノ間ノ海峽ノ如キハ勿論軍防上ニ於テハ必要ノ場所デアルト云フコトハ我ミ軍事ニ一向經驗ノナイ者デモ飽クマデ承知ハ致シテ居ルノデ、併ナガラ既ニ本院ノ豫算會議ヨリシテ段々ト議論モアッテ既ニ上奏案トマデナッテ一旦ハ本議場ヲ煩シタト云フヤウナ次第ハ何ヲ以テ斯ノ如キコトヲ致シタカト云ヘバ強チニ軍備ノ擴張ガ過度ト云フ點ノ裏ニハ國力ガ不相當デアルト云フコトデアッテ卽チ殖產興業ノ事ニ於テハ十分ヲ盡サネバナラヌト云フ所ニ於テ斯ノ如キ其殖產興業ノ點ニ於テ不釣合ナ膨脹ノ宜敷ナイト云フ趣旨ニ止マッテ居ル、シテ見マスレバ、將來ノ日本ノ防禦ノ點ニ於テ固ヨリ必要缺クベカラザルコトデ決シテ許スベカラズト云フ確定ノコトガアレバ已ムヲ得ズ其人民ニモ諭サヌデハナリマセヌガ、我ヲ以テ之ヲ見ルトキハ兩樣竝行レテ差支ナイト云フ見込ガアル、ソレハ何カト申セバ馬關ノ海峽ハ狹イ一體ニ、工事ノ有樣デ見レバ……之ヲ軍艦ノ緩急事アルトキノ集合場トカ何トカ云フコトニ就イテハ固ヨリ今ノ有形デハ商船ノ集合ヲ禁ジテモ狹イ位デアルト云フコトハ是ハ一見シテ分ッテ居ル、併ナガラ之ニ經費ヲ加ヘマシテ十分ニ經費ヲ致シテ商港ハ商港、軍港ハ軍港ト云フ所ノ兩樣竝ヒ用ヒルト云フノ人事ヲ盡セバ必ラズ兩樣竝ヒ用ヒラレテ平時ニ於テハ大ニ貿易上ノ便利ヲ得テ國力ノ培養ニ必要ナル貿易上ノ目的ヲ達シ、事アル時ニ當ッテハ之ヲ區域制限ヲ加ヘテ……

〔子爵谷干城君「ソンナ旨イコトハ出來マセヌ」ト述フ〕

決シテ差支ナイ、是ハ政府ノスワリト卽チ人民ノ其堵ニ安ンズル所ノ區域ヲ立テレバ必ズ出來ナイコトデハナイト云フ、我ミニ於テハ十分ノ見込ガアル其經費ノ如何ハ此議場デ申述ルニ及バヌ、ソレデ實ニ今日政府ノ意向モ許サヌト云フコトニ大抵決定致シテ居ルニ拘ラス、我ミハ飽クマデ之ヲ主張シテ馬關海峽ノ改鑿ニ著手ヲ致シテ兩樣完イト云フ所ノ經費ヲ立テタイト云フコトヲ熱心ニ考ヘテ居リマスカラ其コトヲ一言致シ置キマス、唯今ノ谷君ノ御論ハ軍事ノ御經驗ト云ヒ尙ホ一體ノコトニ御經驗ノアル御發言デアラウガ大イニ其一方ニ偏シテハ一方ニ甚ダ不滿足ノ結果ヲ來タサウト存ジマスカラ一言ヲ費シテ置キマス

○馬屋原彰君　唯今此輸出入港ノ馬關門司ノ件ニ就キマシテ反對ノ御說ガ出テ居リマスガ是ニ就キマシテハ敢テ駁擊デハアリマセヌガ今一應一ツ御再考ヲ願ヒタイト申シマスルモノハ既ニタッタ此間本院ノ此請願會議ニ於テ既ニ此馬關ノ、下ノ關ノ此輸出港ト云フコトノ請願ハ容レラレタンデス、容レラレタト云フモノハ卽チ政府ニ送付スルコトニナッタンデス其是ハ傍ニヤッパリ出テ來タ其トキニ是ハ同時ニ出レバ其時ニ併テヤルノデアッタ、然ルニ其時ハ未ダ是ガ出ナカッタンデアリマシテ詰リ馬關附近ノ地方ノ人民ガ唯有志相集ッテ是ハ連署シテ澤山ノ一万何ボウカナ人數デ出ルノデ調印等ノコトデ多少暇ガ取レテ同時ニ出スコトガ出來ナカッタト思ハル、既ニモウ一部ハ院議ニ附シテ院議ガ之ヲ大體ハ採擇スベキモノト云フコトノ決議ニナッテ居ル、ソレデ又之ヲ今斯ウ云フ反對ノ御論デ御止メニナルト云フノガ諸君ノ御多數デアレバ仕方ガナイガ本員ハ甚ダ惜ムノデス、サウドウモ玆デ二度ノ方

針ヲ取ラルヽト云フコトハ本員ハ甚ダ感服セヌコト、思ヒマス、加フルニ是ハ甚ダ要衝ノ地デアルト云フ御說デアリマシタガ既ニ今日ハ如何デゴザイマス特別輸出港ヲ許サレテ居ルデハアリマセヌカ門司モ馬關モ唯之ヲ少シ擴メテ貰フテ品物ガ數品外ナイ持出ス品物ガ數品ニ限ラレテ居ルカラ之ヲ段ゝ國運ノ發達、事業ノ振興シテ居ル際ニ當ッテハ今少シ之ヲ區域ニ擴メテ貰ヒタイト云フ精神ニ過ギヌノデアリマス、之ヲ今ソンナラ大イナル神戸ノ如ク大阪ノ如ク橫濱ノ如クト云フヤウナ貿易港ニシヤウト云フノデハナクシテ是マデ數品ニ限ラレテ居ルヤツヲモウ少シ品物ヲ殖シテ之ヲ日本人ダケデ輸出ノ商路ヲ開キタイト云フ趣意デアリマス、今若シ是ガ要衝ノ地デアルカラソレハ出來ヌト云フナラバ既ニ特別輸出ヲ許シテアル朝鮮ヘ輸出ヲ許シテアルノハドウモ不都合ト謂ハザルヲ得ヌ既ニ許シテアルモノハ五十歩百歩、少シモ違ハナイ私ノ見込デアリマス、併ナガラ之ヲ本院デ可決ニナリマシタ所ガ必ズソレヲ政府ガ採用スルヤ否ヤ是ハ當局者ガ事實ヲ調ベ又軍事上ナリ其他色ゝノコトヲ調ベテ是ハ所謂採擇デ、採ルベキモノハ採リ棄ツヘキモノハ棄ツル即チ一言ニ言ヘバ參考ノタメニ回スノデアリマス、我ゝモ即チ請願委員ノ一人デ十分ニ事實マデモ調ベ軍事上總テ間接直接ノコトヲ調ベテ出スト云フ譯ニハ往カナイ、總テ御承知ノ通書類ニ依ッテヤルノデ先ヅ大體憲法ナリ議院法ナリノ規定ニ背カヌ以上ハ所謂言路洞開ノ趣旨ニ出テタル請願デアリマスカラ規則ニ觸レヌ以上ハ先ヅ以テ當局者ノ採擇ニ供スルト云フコトガ私共ハ本旨デアラウト思ヒマス必ズ茲デ院議デ決シタカラト云ッテ政府ニ許セト云フ催促デハナクシテ大體ノ採擇ニ供スルノデ及ブ限ハ規則ニ觸レナケレバ政府ニ送ッテ宜イト云フ斯ウ云フ方ノ方針ヲ私ハ希望シテ居ルノデアリマス、旁ゝ以テ今ノ反對論ヲ私ハ敢テ駁擊ハ致シマセヌガドウカ是ダケハ既ニ一部ノ人民ノ請願ハ決議ニナリ其後カラ出シタモノハ二日カ三日後レタタメニソレハイカヌト云フヤウナ二途ノ方針ヲ取ルト云フコトハ甚ダ私ハ惜ムコトデアリマス、又之ヲ今茲デ決セラレタ所ガ前申シマス通是デ極ッタト云フ話デハナイ唯政府ニ送ルダケノコトデアリマスカラドウカ其邊ハ然ルベク御勘考ニナッテ委員會ノ決議通可決ニナランコトヲ希望致シマス

○男爵渡邊清君　本員モ委員會ノ一人デアリマスガ本員ノ考ハ丁度今谷子爵ノ言ハレタト同樣ナ考デ本員モ不同意デアッタ、然ルニ宍場君ガ今言ハルヽニ此下ノ關門司ノ兩灣ノ間ニ於テ軍港或ハ貿易港何カ兩方連用スルヤウナコトデ差支ナイト述ベラレタヤウデアリマシタガ是ハドウモ望ムベカラザルコトデアラウト思フ、誰モ承知ノヤウニアノ狹隘ノ所ノ其潮ノ早イト云フコトハ誰モ知ッテ居ル僅ニ船ヲ繫ゲル所ハ門司ノ方ノ些細ナ所デアル、彼ノ場所ニ於テ或ハ軍港或ハ貿易港ト云フモノハ固ヨリ行ケルモノデハナイ、マア九州ノ方ノ命脈尙ホ之ヲ一歩進メテ言ヘバ我國ノ命脈ニ關スル所ト謂ッテ宜カラウ、軍事ノ上ニ於テハ是ハ下ノ關ニ於テモ門司ニ於テモ同樣、門司ハ尙ホ更必要デアラウト思フ位、ソレデ勿論素人ノ我ゝデアルケレドモ誠ニ是ハ兩港ノ人民ニ納得サセテ迚モイケヌト云フ國家的感念ヲ與ヘルヨリ外ハナイト本員ハ考ヘル

○子爵谷干城君　チヨット馬屋原君ニ御尋シマスガ……

○議長（公爵近衞篤麿君）　チヨット申シマスガ定足數ガ缺ケテ迚モ續テ議スル譯ニイキマセヌカラ今日ハ是デ會議ヲ止メマス、今朝御委託ニナッタマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報道致シマス

國稅徵收法案特別委員

伯爵上杉茂憲君　子爵河鰭實文君　子爵小笠原壽長君
岡內重俊君　男爵小畑美稻君　男爵菊池武臣君
澤簡德君　鮫島武之助君　澤原爲綱君
關稅定率法案特別委員
伯爵立花寬治君　子爵鳥居忠文君　宮本小一君
男爵小澤武雄君　前田正名君　男爵吉川重吉君
西村亮吉君　富田鐵之助君　梅原修平君
協議會委員
子爵谷干城君　子爵曾我祐準君　子爵岡部長職君
子爵竹內惟忠君　子爵堀田正養君　子爵本多憲君
男爵青山貞君　男爵小澤武雄君　山脇正玄君
平山成信君

次ニ議事日程ヲ御報道致シマス

（中根書記官長朗讀）

明治三十年三月二十二日午前十時開議

第一　請願委員長報告　會議（特別委員長報告）

第二　明治二十八年度豫備金支出ノ件（政府提出、衆議院送付）　會議（特別委員長報告）

第三　明治二十八年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件（政府提出、衆議院送付）　會議（特別委員長報告）

第四　明治二十八年度特別會計豫備金支出ノ件（政府提出、衆議院送付）　會議（特別委員長報告）

第五　明治二十八年度特別會計歲入及資金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件（政府提出、衆議院送付）　會議（特別委員長報告）

第六　傳染病豫防法案（政府提出）　第二讀會

第七　明治二十九年度海軍省所管歲出臨時部臨時軍事費中支出未濟豫算額ノ繰越使用ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第八　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧

第九　土地區劃改良ニ係ル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧　會議（決算委員長報告）

第十一　明治二十七年度決算ニ關スル決議案

第十二　古墳墓保護ニ關スル建議案（外山正一君發議）

第十三　製鹽調査所設置ニ關スル建議案（村田保君發議）　會議

第十四　下ノ關門司兩港ノ開港外輸出入港ト爲スノ請願　會議（前會ノ續）

第十五　登錄稅法自家用酒稅法、葉煙草專賣法改正及廢止ノ請願　會議

第十六　清國償金ノ一部ヲ普通教育基本金ニ充ルノ請願　會議

第十七　營業稅法改正ノ請願　會議

第十八　社寺上地山林引戻ノ請願　會議

第十九　地租免除ノ請願　會議

第二十　日本銀行條例中改正ノ請願　會議

第二十一　特別免租ノ請願　會議

第二十二　地租延納ノ請願　會議

第二十三　不正肥料販賣取締規則發布ノ請願　會議

○議長（公爵近衞篤麿君）　今日ハ散會

午後三時四分散會